公益財団法人　日本ハンドボール協会 編
平成30年11月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻585号

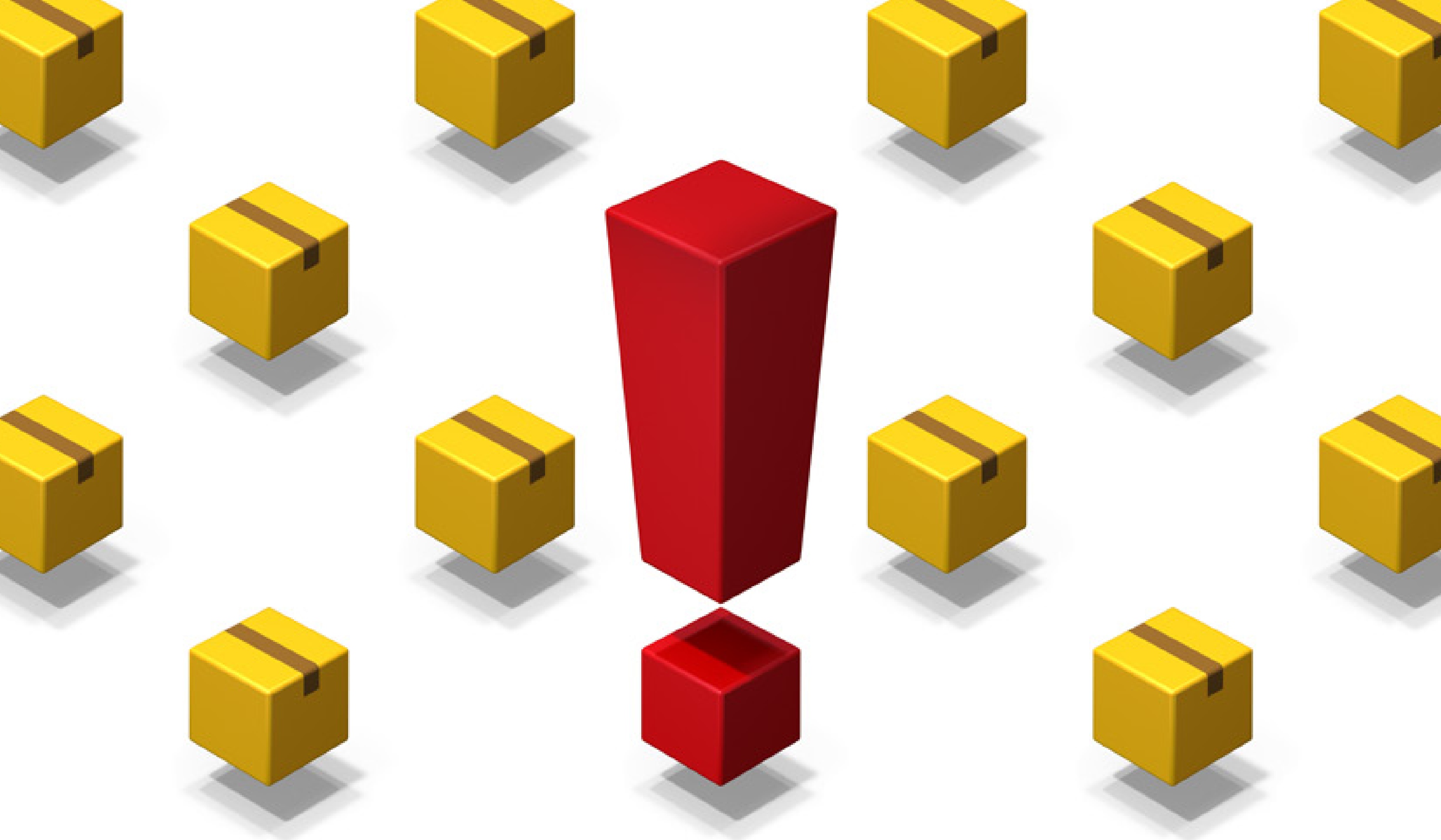
ハンドボール

11
NOV.2018
No.585



●第8回男子ユースアジア選手権
●第73回国民体育大会ハンドボール競技会
●第24回世界学生選手権
●第45回全国高等専門学校選手権大会

公益財団法人　日本ハンドボール協会



世界が驚く、物流をつくろう。

東京2020大会を、物流から支えていきます。

TOKYO 2020

ヤマトホールディングス

TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー

詳しくはこちら http://www.yamato-hd.co.jp/tokyo2020/ 世界が驚く、物流をつくろう。 検索

プレミアム・リゾートという選択

一戸建て住宅型有料老人ホーム



メディケアサポートHABA

2017年12月伊豆高原にオープン

12/1(金)より予約申し込み開始！

☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開！
待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。
弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。



私達、株式会社ユリカコーポレーションは
女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188　http://yurika-co.jp/


ANA
ANA

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO

Behind Your "Best"



味の素㈱は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。





\ がんばる人のチカラになるごはん /

勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。
味の素㈱は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。

TOKYO 2020　AJINOMOTO　TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルパートナー
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)

ハンドボール 11月号 №585



【表紙の写真】第8回男子ユースアジア選手権

CONTENTS

がんばれハンドボール 20 万人会「サポート会員」9 月入会・継続会員

【埼玉】齋藤成年【東京】田島雅史、土田　健、平賀とみ子【神奈川】三輪修大【福井】中林幹雄【静岡】永井裕之、安野順一【愛知】深谷帆波、筒井理絵、牧野千別、登丸亨介、田中基明【三重】加藤　祥、岡田　望、長島三哉子【大阪】秦　隆二、秦　伊織、宮﨑　寛【兵庫】高祖加奈子【広島】青戸克好【香川】稲毛浩司　※【千葉】小椋良子

次号 12 月号（№ 586）は 12 月 1 日発行予定です。

「さあ来い！2019､2020」



公益財団法人 日本ハンドボール協会 常務理事
競技本部長
高野　修

昨年 10 月末に日本協会競技本部長に就任いたしました。ようやく就任から 1 年間が過ぎようとしていますが、競技運営上の数々の問題、登録の問題など多くの課題とご協力をいただきながら、大会運営に当たっております。また、今年 12 月には女子アジア選手権が熊本で開催されるため、その準備に熊本県組織委員会の方々と共に日本協会もその実施に向けて準備を進めています。そして、そのアジア女子選手権をステップに 2019 熊本女子世界選手権、東京 2020 オリンピックへ着実にその歩みを進めて参りたいと思っております。

さて、これまで日本は、オリンピック開催は 1964 年の東京以来 2 回目の開催となりますが、ハンドボール競技を実施するは初めてです。世界選手権は 1997 年の熊本に続いて 2 回目の開催。熊本開催はヨーロッパ圏を離れての初めて開催という快挙でありました。オリンピック予選はミュンヘン大会の予選を東京で行ったのを皮切りに 8 回、特に 1991 年の広島では男女合わせて 17 か国が参加するという大規模で本格的な国際大会を国内で初めて開催した歴史的な出来事でもありました。その歴史的な大会から 4 年後には地方では初めてのアジアのスポーツの祭典「アジア大会」が広島で開催されています。アジア選手権はオリンピック予選も兼ねて行われ男女で 4 回、アジアジュニア選手権は男子が広島と女子が大阪で各 1 回、アジアユースは女子を熊本で 1 回開催しており、これまで多くの国際大会を開催してきた実績が日本にはあります。

そして、そのノウハウを基に、いよいよこれからのメガイベントに日本の総力を挙げて挑んでいくことになります。現在、日本協会に登録しているチーム数は 4,860、選手・役員数は 103,631 人、そのほかにも日本協会、連盟、都道府県協会役員は 1,077 人、審判員は 3,255 人がこれからのメガイベントを心待ちにしており、代表選手として、大会役員として、審判員として、競技ボランティアとして、また観客として大会への参加、成功を願って、総力を挙げて挑んでいく体制を日本協会として整えていかなくてはなりません。

もちろん、この 2 つの大会が成功したといえる成果としては、日本代表のメダル獲得や観客動員が最も大きなものであると思いますが、大会開催は、多くの時間をかけて準備をされてきた方々の甚大なる努力の結晶があるからこそであり、その多くの方々が携わる大会のレガシーとして心に残る大会であり、そのノウハウを生かし競技運営能力が向上すること、ハンドボールファンの増大も成功したという証になると思います。

国際大会では多額の経費が必要な他、輸送、宿泊、競技運営、映像配信、会場設営、練習会場、マーケティングなど各部門に多くの方々が携わっていきます。大会ボランティアの方々も熊本世界選手権では約 2,500 人、オリンピックでは大会運営に 8 万人、ハンドボール競技運営には 200 名程度の方々が携わることになっています。また、競技運営関係では、国際競技連盟（IF）から派遣される ITO（国際技術役員として、IHF オフィシャルやテクニカルデレゲート、審判員）と国内競技団体（NF）から選出された NTO（国内技術役員）で競技運営が行われ、このメンバーを中心にチーム付役員、広報担当、コート係と多くの役員が携わります。

是非､全国から多くの方々の参加･ご協力をお待ちしています｡皆さんの力で大会を成功に導きましょう！

熊本世界選手権ボランティア募集　URL：https://japanhandball2019.com/news/2018070607/
東京2020大会ボランティア応募　URL：https://tokyo2020.org/jp/special/volunteer/

第8回 男子ユースアジア選手権

開催期間：2018 年 9 月 16 日～ 9 月 26 日
開 催 地：ヨルダン・アンマン

最終順位
優勝：バーレーン
２位：日本
３位：チャイニーズタイペイ
４位：サウジアラビア
５位：イラン
６位：インド
７位：ヨルダン
８位：中国
９位：カタール
10位：UAE
11位：オマーン
12位：シリア

メンバーリスト

役職	名前	所属	
団長	田口　隆	公益財団法人日本ハンドボール協会	
アンダー強化副部会長	瀧川　一徳	公益財団法人日本ハンドボール協会	藤代紫水高等学校
監督	植松　伸之介	公益財団法人日本ハンドボール協会	明星大学
コーチ	大房　和雄	公益財団法人日本ハンドボール協会	高岡向陵高等学校
GK コーチ	吉田　耕平	公益財団法人日本ハンドボール協会	関西大学北陽高等学校
ドクター	井本　光次郎	公益財団法人日本ハンドボール協会	熊本赤十字病院
トレーナー	渡部　真弘	公益財団法人日本ハンドボール協会	さがみが丘整骨院
アナリスト	川村　陸哉	公益財団法人日本ハンドボール協会	東海大学

背番号	ポジション	名前	所属	出身校
1	GK	石濱　塁	同志社大学	愛知高等学校
2	CB	佐藤　陽太	駿台甲府高等学校	甲州市立塩山中学校
3	LB	久保寺　歩夢	駿台甲府高等学校	甲州市立塩山中学校
4	LW	可児　大輝	中部大学春日丘高等学校	春日井市立西部中学校
6	LW	窪田　礼央	県立氷見高等学校	氷見市立西條中学校
7	CB	安平　光佑	県立氷見高等学校	氷見市立西條中学校
8	LW	清水　裕翔	県立氷見高等学校	氷見市立西條中学校
9	PV	吉田　守一	県立那賀高等学校	紀の川市立貴志川中学校
11	LB	藤川　翔大	筑波大学	県立岩国工業高等学校
12	GK	矢村　裕斗	神戸国際大学附属高等学校	加古川市立浜の宮中学校
14	LB	山口　直輝	高知中央高等学校	高知市立介良中学校
15	RW	石嶺　秀	興南高等学校	浦添市立浦西中学校
17	PV	朝野　翔一朗	筑波大学	県立氷見高等学校
18	RW	梶山　瑞生	神戸国際大学附属高等学校	明石市立魚住東中学校
19	LW	金津　亜門	四日市工業高等学校	菰野町立菰野中学校
20	CB	石田　知輝	県立洛北高等学校	京田辺市立大住中学校
21	GK	角　陸輝	祐誠高等学校	筑後市立羽犬塚中学校
25	RB	蔦谷　大雅	大阪体育大学浪商高等学校	大阪体育大学浪商中学校

男子ユースアジア日本代表監督　植松 伸之介

　はじめに、第８回アジアユース選手権出場にあたり、日本ハンドボール協会の関係者をはじめ、選手を派遣して頂きました所属チームの先生方やご家族の皆様には、多大なご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。また、日本からたくさんの心温まる応援メッセージを送ってくださった方々には、この場をお借りして心からお礼申し上げます。本当に有難うございました。

　予選ラウンド第一試合のイラン戦での敗戦によって選手達の固さが抜け、それ以降は試合を重ねるごとに息の合った素晴らしいコンビネーションプレーや、闘志溢れる DF でチームとして徐々に進化を遂げ、その後もカタール戦での引き分け、バーレーン戦での大逆転負けなど、傷を負いながらもそれを糧として更に逞しく成長する事が出来ました。

　決勝を戦ったバーレーンとは直前のトレーニングマッチも含め３連敗をしていましたが、戦術的には特別なことはせず、このチームが発足してから多くの時間を費やして強化してきた DF を徹底しよう、『我々は成長している。自信を持って戦おう！』とミーティングで確認し、決勝戦に臨みました。

　残念ながら目標であったアジアユース初制覇はなりませんでしたが、選手達は慣れない厳しい環境の中で、自信を持ってプレーし、国の代表として立派に戦ってくれました。そして世界ユース選手権の出場権を獲得し、自分たちの手で次のステージへのチャンスを掴みました。一試合ごとに逞しく成長する選手たちの姿に、我々スタッフも心を打たれ、何としても勝とう！自分の出来ることを精一杯やろう！とチームが心を一つに出来た事が、今大会の結果に繋がった要因の一つと考えています。

　またこの成果は、これまでの日本ハンドボールの組織としての力でもあります。直前のバーレーンでのトレーニングマッチがなければ、中東勢のハンドボールに慣れた頃には、もう世界へのチャンスは閉ざされていたと思います。苦しい戦いを強いられてきた歴史があるから、対中東勢の DF システムを準備する事が出来ました。我々はこの経験を整理して次のステージに繋げ、また次の世代に伝えることによって日本ハンドボールとしての力とせねばならないと強く感じました。

　男子ユース代表チームにこのような貴重な経験をさせて頂いた日本ハンドボール協会の関係者の皆様、所属チームの皆様、応援してくださった全ての皆様に、改めて感謝の意をお伝えさせて頂き、大会の報告とさせて頂きます。














心ひとつに
夢をつかめ！
ヨルダン日本人会




KAJIYAMA
18
SHIMIZU
8









戦　評

◆予選ラウンド（グループD）

◇９月16日

イラン　29（17－15、12－13）28　日本

第８回アジアユース選手権のオープニングゲームでもある日本―イランの一戦。これまで日本ユースは４回の合宿（大同特殊鋼、トヨタ車体、NTC など）と、U-22 東アジア選手権を経験するなど強化を進めてきた。目標は、来年マケドニアで行われる世界選手権の出場権獲得と初のアジア制覇である。予選グループＤは、日本、イラン、カタール、UAE の４チーム。マスメディアからの直前のニュースでは、『グループＤは死の組』と発信されるように、どのチームにも予選敗退の可能性がある危険なグループである。

日本ボールでスタート。RB 蒿谷が豪快にロングを叩き込み、今大会の初得点をあげる。体格に優れるイランは、闘争心を剥き出しにして攻守を展開。硬さの見られる日本は、攻撃がかみ合わずイランに速攻を許してしまい３連続失点。それでも、石田、藤川のミドルで反撃、10 分には同点に追いつく。その後イランの気迫溢れる DF を崩せず、悪い流れが続く。DF でも RW に連取され、６対 10 と４点のビハインドとなったところで、チームタイムアウトを要求。攻めるポイントを確認しあった日本は息を吹き返す。イランのミスを速攻につなげて、蒿谷、藤川、浅野の連打で 25 分遂に 14 対 14 の同点に追いつく。しかし、その後はミスから速攻に走られ、前半は 15 対 17 で折り返した。

後半、梶山の連取で 17 対 17 の同点に追いつく。サイドから決められるも、藤川の強打、可児の速攻でこの試合初めてのリードを奪う。ここで流れに乗りたい日本だったが、ミスからの逆速攻と RW の個人技で再び逆転を許す。ここから一進一退の攻防が続き、試合は終盤へ。27 分日本が同点を狙ったセットプレーで攻めきれず、そこから逆速攻にあって２点差。28 分にもミスが出て、25 対 28 と３点のビハインドとなってしまう。石田の身体を張ったシュートで返すも、29 分に突破を許して勝負を決められた。最後は梶山、藤川の速攻で連取したものの、アジアユースのオープニングゲームは、28 対 29 の一点差でイランに惜敗した。

一次リーグ突破のためには、負けられない戦いが続く。準備をしっかりと行い、明日の UAE との戦いに備えたい。

◇９月17日

日本　34（15－14、19－6）20　UAE

第８回アジア選手権２戦目は UAE との対戦。１戦目のイラン戦で敗戦を喫している日本にとって、予選リーグ突破のためには絶対に負けられない１戦である。前日のミーティングでは UAE の得点源であり、司令塔でもある No.9 に対して、集団となり強度の高い接触で DF すること、両ウィングの単独速攻にやられないことを重点におくことを確認して試合に臨んだ。

UAE のスローオフよりゲームが開始。UAE No.9 の１対１から No.77 のサイドで先制点を許す。日本も相手のミスを蒿谷の単独速攻につなげ１点を返す。前半５分から UAE No.9、No.10 のカットインなどにより３連続失点してしまい３対６、流れが UAE に傾きかけるが、クイックスタートから石田のスピードあるカットイン、梶山の単独速攻などにより一進一退の攻防を展開し、前半は 15 対 14 と日本が１点リードして折り返す。

後半立ち上がりは RW 梶山が躍動する。回り込みからのミドル、速攻でのテクニカルなスピンを決めて、日本を勢いに乗せる。18 対 14 と好スタートを切った日本は、DF においてもアグレッシブに動き、ポイントにおいていた UAE No.9 を見事なまでに封じ、UAE に反撃のスキを与えない。後半 16 分からは、蒿谷のロング、藤川のカットインなど、怒涛の９連続得点で一気に引き離し、34 対 20 と UAE を圧倒した。

明日、国体を終えた氷見トリオがチームに合流し、U-19 日本代表メンバーが全員揃う。チームがメインラウンドに駒を進めるには同点以上の結果を出さなくてはならない。しっかり準備して明日のカタール戦を迎えたい。

◇９月18日

日本　31（16－15、15－16）31　カタール

予選リーグ突破をかけた第３戦は、各カテゴリーで成長著しいカタール。日本セブンはミーティングでこの試合の重要性を確認し、一致団結して戦いに臨んだ。スターティングメンバーは、RW 梶山、RB 蒿谷、CB 石田、LB 藤川、LW 可児、PV 朝野、GK 石濱、DF 山口の布陣。開始早々から、カタールの No.10 が闘志剥き出しのプレーで日本ゴールを襲う。対する日本は、RB 蒿谷がキレのあるミドルを叩きこみ、一進一退の攻防を展開。カタールは No.10、No.15 の力強い個人技で得点を重ねる。一方日本は、変わって入った CB 安平の展開から、LB 窪田、RB 蒿谷が打ち込み、前半は 16 対 15 の１点リードで折り返す。

後半開始早々、カタールの退場やミスに乗じて、LB 藤川の連打で 22 対 18 と４点のリードを奪う。カタールの No.10 にシュートをねじ込まれるも、再び蒿谷のミドルが突き刺さり、４点のリードを保つ。しかし、ノーマークシュートをカタール GK・No.18 の攻守に阻まれ、徐々に追い上げられ、29 分には 30 対 30 の同点となる。日本はラスト 30 秒でチームタイムアウトで攻撃の意思統一をはかり、ラスト 20 秒 CB 安平、LB 窪田、LW 清水の氷見トリ

戦　評

オの鮮やかな連係プレーから勝ち越し点をあげるが、すぐに失点してしまい、31 対 31 の同点でタイムアップとなった。この結果、得失点差で予選ラウンドを突破、メインラウンド進出を決めた。メインラウンド初戦は、大会直前のトレーニングマッチで 2 戦 2 敗のバーレーン。日本代表ユースチームはリベンジに燃えている。

◆メインラウンド

バーレーン　27（8 − 14、19 − 9）23　日本

メインラウンド一回戦は、今大会直前に親善試合を行ったバーレーン。親善試合では、バーレーンの力強く組織的な OF を守りきることができず、連敗している。日本チームは DF の約束事を徹底し、OF では人とボールを動かしながら前を狙うことを確認して試合に臨んだ。バーレーンボールでスローオフ。開始直後から日本セブンの闘志あふれる DF でバーレーン OF を遮断、それを速攻につなげて連続得点を奪う。バーレーンに与えた 7mT も GK 矢村がことごとくシャットアウトし、前半 10 分で 7 対 0 とリードする。その後も CB 安平のクイック、RW 梶山のサイドで加点し、前半を 14 対 8 で折り返した。

後半に入るとバーレーンは点差を詰めるべく、積極果敢に日本ゴールを襲う。日本は消極的な OF からミスが続き、頼みの DF でも前半のような積極性がなく、失点を重ねてしまう。後半 10 分までに 5 連取を許し、16 対 16 の同点に追いつかれてしまう。日本は LW 可児の回り込み、CB 石田のミドルで再びリードするも、その後 7 連取され、25 分には 20 対 25 と 5 点のリードを許してしまう。日本は、RW 梶山のサイド、GK 石濱が直接ゴールを奪うなど、意地を見せるも最終スコアは 23 対 27 で敗れた。明日の対戦相手は地元ヨルダン、世界選手権の出場権を獲得するためには負けられない一戦である。選手、スタッフ一丸となってしっかりと準備をして戦いに臨みたい。

◇ 9 月 21 日

日本　33（15 − 7、18 − 6）13　ヨルダン

「私達は、今試されている。」東アジア選手権時のチームスローガンである。昨日のバーレーン戦で天国と地獄を経験し、逆転負けを喫したヤング彗星ジャパン。ヨルダン戦は、その敗戦のショックから立ち直り、目の前の敵としっかり戦うことができるかが焦点となる。世界選手権に出場するチームに相応しいか、私達は試されているのである。スタートは、RW 石嶺、RB 蔦谷、CB 佐藤、LB 窪田、LW 藤川、PV 吉田、GK 矢村の布陣でスローオフ。序盤、日本は吉田、窪田を中心とした強固な DF で、ヨルダン OF の勢いを止め、無理やり押し込んでくるシュートも GK 矢村が無難に捌く。藤川、石嶺が速攻に走り、それを追う蔦谷、佐藤がシュートをねじ込む理想的な JAPAN ハンドボールで、前半を 15 対 7 で終える。

後半に入っても集中力を切らさず、山口、可児、吉田がアグレッシブな DF でヨルダン OF を分断。そこから清水が走り、PV 吉田が暴れ、山口が上から叩き込み、順調に加点。変わって入った GK 石濱も好守を連発し、最終スコア 33 対 13 でゲームセット。この試合の焦点であった「立ち直り戦うこと」にチーム一丸となってチャレンジしてそれを達成、大きく成長したといえる。明日は、世界選手権の出場権をかけてインドと対戦する。丁寧な準備をして、明日の大一番に備えたい。

◇ 9 月 22 日

日本　41（20 − 12、21 − 6）18　インド

ユース世界選手権の出場権を賭けてのインド代表との対戦。「相手をリスペクトし、攻守において全力でプレーする。」がこの試合のキーワードである。スタートは、RW 石嶺、RB 蔦谷、CB 安平、LB 窪田、LW 可児、PV 吉田、GK 矢村の布陣でスローオフ。序盤、日本は石嶺のサイドを皮切りに、安平、可児の速攻で得点を重ねるが、インドの両ウィングプレイヤーに連続でサイドから決められ、序盤は一進一退の攻防が続く。19 分、蔦谷のディスタンスから 6 連続得点を重ね、23 分には 15 対 9 と突き放す。その後も攻守が噛み合い、前半終了時には 20 対 12 と大きくリードした。

後半も日本の勢いは止まらない。藤川、清水、佐藤らの活躍で 7 連続得点を奪う。DF が安定し、次々に速攻が決まり、全員出場・全員得点で、最終スコアは 41 対 18 と大きく突き放して勝利した。試合終了後は世界選手権出場権を獲得したこともあり、ヨルダン在住の日本人会の皆さんと共に、歓喜の声がアンマンの体育館に響き渡った。1 日の休息日を挟み、いよいよ FINAL4 に臨む。ユースアジア選手権初優勝に向けてしっかりと準備をして、悔いのない戦いをしたい。

◆準決勝：9 月 24 日

日本　25（11 − 7、14 − 10）17　サウジアラビア

先のメインラウンド第 3 戦、インドとの戦いでユース世界出場権を勝ち取った日本ユースチームの目標は、初のアジア制覇に意思統一された。決勝は再びバーレーンとの対戦が予想されるが、この準決勝を勝たなければ次がないことは皆が理解している。気を引き締め、サウジアラビアとの一戦に臨む。

試合開始早々に梶山のサイドで先制するも、サウジアラ

戦　評

ビアはカットイン、ポストで反撃。開始５分までは１対２でサウジアラビアリード。お互いにミスが続き膠着状態が続く。10 分過ぎ、粘り強い日本 DF にサウジアラビア OF 陣が攻めあぐむ時間が多くなる。そこから可児、朝野、安平、窪田の速攻で４連続得点で日本が一歩リードする。しかし、サウジアラビアも DF からの速攻で３連取、23 分には７対６と日本のリードの展開。しぶといサウジアラビアだが、日本は安平、山口らが走って再び３連取、前半は 11 対７と日本４点リードで折り返した。

後半、ミスから速攻に走られるも GK 矢村がファインセーブ。そのボールを蔦谷、可児とつないで得点に結び付け、この日最大の６点差とする。その後も粘り強く DF を展開、突破してくるシュートを GK 陣がさばいていく。終盤には連続失点で５点差になる場面もあったが、藤川の身体を張ったカットインや石田のクレバーなパスワークでリードをさらに広げ、25 対 17 と８点差をつけて勝利することができた。

粘り強く守り、粘り強く攻めるという、我々が目指すハンドボールを表現できた会心のゲームとなった。次の決勝は、バーレーンとの再戦である。メインラウンドの対戦では、前半は攻守がかみ合い６点リードで折り返すも、後半はバーレーンの攻勢の前になすすべなく逆転負けを喫した。その経験を活かし、次の決勝では何とか勝利し、悲願のアジア制覇を実現させたい。

◆決勝戦：９月 26 日

バーレーン　34（17 − 16、17 − 15）31　日本

第８回アジアユース選手権の決勝戦。日本は、ここまで予選ラウンドでのイラン戦の敗北、カタールとの引分、バーレーンに大逆転負けなど、傷を負いながらもそれを糧として成長してきた。決勝戦の相手のバーレーンには、直前のトレーニングマッチも含めて３連敗を喫しているが、『我々は成長している。自信を持って戦おう！』とミーティングで確認して試合に臨んだ。戦術的には特別なことはせず、これまで通りしっかりと守り、スタートから速攻に走るというゲームプランであった。

運命の決勝戦のスタート、今大会で急成長したサイド梶山の鮮やかなサイドで先制。すぐさまバーレーンもサイドが跳び込んで同点。安平の虚をつくパスから、朝野のポストで２点目。バーレーンは BP 陣の速いパス回しからのカットインで再び同点。開始６分まで５対５と両者一歩も引かない点の取り合いが展開される。日本はこれまで出場機会の少なかった清水が、サイド、速攻と活躍するも、バーレーンのサイドを止められず均衡が破れない。20 分、日本のミスに乗じてバーレーンが速攻に走り、この試合初めての２点差がつく。次の日本の攻撃もノーマークを相手 GK に阻まれ、それをつながれて３点のビハインドとなったところで、日本はチームタイムアウト。息を吹き返した日本セブンは、藤川、清水で連取して再び１点差に詰め寄る。その後、蔦谷らで得点するも、終了間際にロングを打ち込まれ、前半を 16 対 17 とバーレーンに１点のリードを許して前半を折り返す。

後半、清水の速攻、藤川のミドルで連取して逆転に成功する。しかし、バーレーンも慌てず攻撃を作り、ポストから同点。蔦谷の３連打で再び先行するも、サイドから決められて同点。流れは日本にあったが「あと一本」が出ない。１点差～同点の攻防が続いたが、後半 15 分日本は速攻のチャンスをミスからターンオーバーされて失点、そこから流れはバーレーンに傾く。クイックスタートで蔦谷が打ち込むも、サイド、7mT で失点し、20 分には３点のビハインドとなる。点差を詰めたい日本であるが、打ち急いだシュートをバーレーン GK に阻まれて万事休す。最後まで諦めず走った日本セブンだったが、追いつくことができずに、31 対 34 でゲームセットとなった。

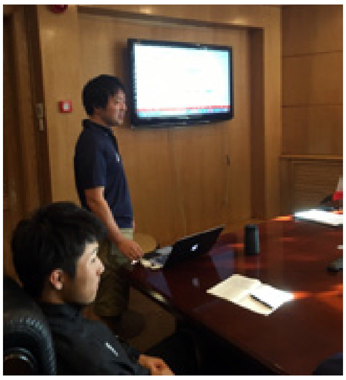
男子ユースアジア選手権記録

回	会期	会場	備考	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位
1	2005	タイ・バンコク	8か国	韓国	イラン	日本	バーレーン	タイペイ	タイ	インド	マカオ				
2	2006	イラン・テヘラン	4か国	イラン	カタール	韓国	日本								
3	2008	ヨルダン・アンマン	11か国	クウェート	カタール	イラン	バーレーン	韓国	サウジアラビア	日本	タイペイ	ヨルダン	イラク	インド	
4	2010	UAE・アブダビ	11か国	カタール	韓国	バーレーン	サウジアラビア	イラン	UAE	日本	タイペイ	イラク	カザフスタン	レバノン	
5	2012	バーレーン マナーマ	12か国	カタール	日本	韓国	バーレーン	サウジアラビア	イラク	シリア	イラン	クエート	タイペイ	ウズベキスタン	オマーン
6	2014	ヨルダン・アンマン	9か国	韓国	カタール	日本	バーレーン	クエート	イラク	イラン	ヨルダン	サウジアラビア			
7	2016	バーレーン マナーマ	9か国	バーレーン	日本	韓国	カタール	サウジアラビア	イラク	ウズベキスタン	中国	香港			
8	2018	ヨルダン・アンマン	12か国	バーレーン	日本	タイペイ	サウジアラビア	イラン	インド	ヨルダン	中国	カタール	UAE	オマーン	シリア

（韓国・イラクの試合結果無効）

U-19 ハンドボール日本代表男子アンチ・ドーピング講習 9月14日in Amman

井本 光次郎（熊本赤十字病院）



U－19ハンドボール男子日本代表に対してアンチ・ドーピング講習を行ったので報告する。

今回、第8回アジア男子ユースハンドボール選手権がヨルダンの首都アンマンにて開催されるため、その帯同に合わせてアンチ・ドーピングに対する講習会を開催した。また、メディカルチェックに合わせて事前アンケートを実施し、投薬やサプリメント摂取の有無、感冒症状など罹患時の対応などについて記載してもらった。

今回のメンバーは高校2年生から大学1年生まで18名で構成されており、これまでドーピング検査を受けた選手はいなかった。講義の内容は、スポーツの価値、“PLAY TRUE” からアンチ・ドーピング規則違反、禁止表国際基準、ドーピング検査の実際、TUE について、さらにドーピング違反事例やサプリメントのリスク、市販薬使用可能リスト、ALPHA 受講のすすめ、DRO などのサイトの活用を中心に講義を行った。

アンケートでは、常用で内服を行っている選手は1名のみであり、内容については事前合宿より把握をしていた。サプリメント摂取を行っているのは18名中3名であり、内2名は大学生であった。摂取内容はプロテイン、クレアチン、グルタミン、マルチビタミンなどであった。サプリメントについては、最近の事例を用いてドーピング違反例を紹介し、できる限り普段の食事より摂取することを推奨し、サプリメントを摂取する場合は国内で認証されたものを使用することが望ましいことを伝えた。病院受診や薬局において、“ドーピング検査を受ける可能性があることを伝えるか” については、18名中7名のみが伝えるとの回答であり、アンチ・ドーピングに対する意識は全体的に低いと感じた。

アンダーカテゴリーでも特にユース世代は、アンチ・ドーピングについての講習会を受ける機会は限られており、その認識の低さがうかがわれた。特に幼少期からの疾患により漫然とドーピング違反薬を摂取しているケースや知識の無さからサプリメント摂取に注意を払っていないこともあるため、ユース世代からのアンチ・ドーピング教育は必須であると考える。



TOPICS

トップ得点者のリスト、トップ10で最も価値のある選手、トップ10ゴールキーパー

8th Asian Men's Youth (U-19) Handball Championship
Top Goalscorers

Rank	Name	Goals	Country
1	Ahmed AL-KHARUSI	71	Qatar
2	Taiga TSUTAYA	52	Japan
3	Hamad ABDELQADIR	48	U. A. Emirates
4	Said AL-HASANI	47	Oman
5	Younes ASARI	40	I. R. Iran
6	Qasim QAMBAR	37	Bahrain
7	Moayed SHUAIB	35	Bahrain
7	Gaith AL-MULLA	35	Syria
9	Shota FUJIKAWA	32	Japan
9	Qinglong XIE	32	P. R. China
9	Yuanyuan RAO	32	P. R. China
9	Xiaotian CHEN	32	P. R, China

8th Asian Men's Youth (U-19) Handball Championship
Top 10 Most Valuable Players

Rank	Name	Country
1	Ahmed AL-KHARUSI	Qatar
2	Shota FUJIKAWA	Japan
3	Younes ASARI	I. R. Iran
4	Hamad ABDELQADIR	U. A. Emirates
5	Taiga TSUTAYA	Japan
6	Moayed SHUAIB	Bahrain
7	Qasim QAMBAR	Bahrain
8	Said AL-HASANI	Oman
9	Gaith AL-MULLA	Syria
10	Qinglong XIE	P. R. China

8th Asian Men's Youth (U-19) Handball Championship
Top Goalkeepers

Rank	Name	Country
1	FARHADINASRABADI	I. R. Iran
2	Husain MAHFOOD	Bahrain
3	Xinian HE	P. R. China
4	Chang TSAI-CHIH	Chinese Taipei
5	Hamed AL-HASANI	Oman
6	Hiroto YAMURA	Japan
7	Nawaf AL-OTAIBI	Saudi Arabia
8	Thenayan SAEED	Qatar
9	Mohame AL-NAJJAR	Syria
10	Rui ISHIHAMA	Japan

日本から参加の審判は、「太田&島尻」ペア



9月21日の韓国vsイラク戦は互いに予選リーグ1位を回避する展開で無効試合になり、両国は大会成績から削除された





第 73 回 国 民 体 育 大 会
「福井しあわせ元気国体 2018」
ハ ン ド ボ ー ル 競 技 会





このページ全て　写真提供：スポーツイベント社

このページ全て　写真提供：スポーツイベント社













開催期間　2018年9月13日～9月17日
開 催 地　福井県・福井市、永平寺町
会　　場　永平寺町　北陸電力福井体育館フレア、
　　　　　　　　　　平寺町緑の村ふれあいセンター
　　　　　福 井 市　福井県営体育館、福井市体育館

最終順位

【成年男子】
優　勝　埼玉県（大崎電気）
準優勝　愛知県（トヨタ車体）
３　位　宮城県（トヨタ自動車東日本）

【成年女子】
優　勝　石川県（北國銀行）
準優勝　広島県（広島メイプルレッズ）
３　位　鹿児島県（ソニーセミコンダクタ）

【少年男子】
優　勝　富山県（氷見高）
準優勝　福井県（北陸高）
３　位　大分県（選抜）

【少年女子】
優　勝　三重県（四日市商高）
準優勝　東京都（選抜）
３　位　山口県（選抜）

第73回国民体育大会「福井しあわせ元気」国体を振り返って

福井県ハンドボール協会理事長　庄司 勝三

明治 150 年記念。さらには平成最後の国体となる「福井しあわせ元気」国体は、開催地としても 50 年振りの感慨深い大会となりました。「織りなそう力と技と美しさ」をスローガンに、県民のみならず来県されるすべての方々と、競技会場の内外でスポーツを介した大きな輪が作られることを願って、各競技で準備を進めて参りました。ハンドボール競技会は中心会期前開催ということで、例年の手順にない過密なスケジュールの中、厳しい残暑と台風の襲来なども懸念しながら、本当に多くの方々のご支援を賜りながら開催に漕ぎ着けることができました。ここに至るまでに関係各所に多大なご迷惑をお掛けしましたことを、この機会をお借りしてお詫び申し上げます。

今競技会は、成年・少年の男子チームが福井市、女子チームが永平寺町に分かれて、４会場５コートで始まりました。生憎の雨模様とはなりましたが、秋らしい気候の中、緒戦から熱戦が続き、延長戦や７ｍスローコンテストまで縺れる白熱したゲームが展開されました。その中には、本県の成年男子・少年女子チームも含まれ、開催地としては誠に残念なことに、両種別とも最僅少差での一回戦敗退となりました。地元の大声援を受け、敗戦とともに肩を落とし膝をつくその姿は、見ていて心が痛くなるほどでした。どの競技でも往々にして見られることではありますが、それだけに勝負の厳しさや公正さが際立つものであり、勝利のために費やした時間や労力は決して損なわれるものではありません。どうか胸を張って次の一歩を踏み出して欲しいと思います。

試合が進み、大会のボルテージが高まりを見せる中、最初に種別決勝を迎えたのは、福井市会場の成年男子と永平寺町会場の少年女子でした。７年連続同一カードとなった埼玉県対愛知県の成年男子決勝は、日本最高峰の豪打とテクニックの応酬となり、詰めかけた大観衆を魅了し続けました。勝敗は、勝負所の堅守速攻で一度もリードを許さなかった埼玉県が、追い縋る愛知県を下して、２年連続 21 回目の戴冠となりました。３位決定戦を宮城県が佐賀県に勝利したことで、JHL 加盟チームが所属する県が、シード順位どおりに勝ち上がったことになります。もう一方の種別決勝少年女子は、高校総体優勝の佼成学園女子高校を主体とした東京都選抜と、今大会ノーシードながら連日の快勝で決勝に駒を進めた、四日市商業高校単独の三重県との対戦となりました。立ち上がりにもたついた東京都が、必死に逃げる三重県を追う展開が終盤まで続き、試合は延長戦に突入する大熱戦となりました。熱狂のデッドヒートは、要所で加点した山本の活躍などで三重県が勝利し、チームとしても三重県少年女子としても初の国体制覇を達成しました。３位決定戦はどちらもノーシードで勝ち上がった山口県が愛媛県を下しました。敗れたとはいえ、愛媛県少年女子チームは、昨年の愛媛国体で果たせなかった大躍進を遂げたと言えます。

翌る最終日は、永平寺町会場の成年女子と、福井市会場の少年男子で種別決勝・３位決定戦が行われました。国体六連覇の懸かる石川県と 15 年ぶり２回目の優勝を狙う広島県との対戦となった成年女子決勝は、前半半ばから抜け出した石川県が、常に優位を保ってゲームを支配し 10 点差の快勝。６年連続 11 回目の優勝を飾りました。３位決定戦は第４シード鹿児島県が第２シード熊本県を振り切りました。もう一方の少年男子種別決勝は、昨日を上回る 3,000 人を超す大観衆の中、初の高校三冠を賭した氷見高校単独の富山県に、地元応援団の大声援に後押しされた北陸高校単独の福井県が挑みました。硬軟併せ持った抜群の得点力を誇る富山県に対し、GK 笹本を中心とした堅守とスピードプレーで対抗する福井県の試合は、まさしく一進一退の息詰まる戦いとなりました。後半中頃から抜け出したかに見えた富山県を、福井県が残り１分で１点差まで追い上げましたが、大観衆の絶叫の中遂にタイムアップ。この瞬間、富山県は 18 年ぶり６回目の国体制覇とともに、今年の高校すべてのタイトルを手中にする偉業を達成しました。３位決定戦は大分県が京都府に勝利しました。

以上の試合結果から、福井国体男女総合順位は、１位富山県、２位東京都、３位石川県・三重県、５位福井県・広島県、７位大分県、８位埼玉県。女子総合は、１位石川県・三重県、３位東京都・広島県、５位山口県・鹿児島県、７位富山県・熊本県・愛媛県となりました。

最後になりましたが、岩手県・愛媛県のハンドボール協会の皆様には、準備段階で惜しみないご厚情を寄せていただきました。日本ハンドボール協会の皆様には大会運営に関する貴重なご助言を賜りました。さらに、開催地職員の皆様には暗中模索しながら労苦をともにしていただきました。今大会の補助員・競技役員の皆様を始め、ご尽力賜りました全ての方々に心からの感謝を申し上げて、福井県ハンドボール協会としての大会回顧とさせていただきます。



成年男子優勝　埼玉県

埼玉県成年男子監督　岩本 真典（大崎電気ハンドボール部）

第 73 回国民体育大会「福井しあわせ元気国体 2018」を振り返って

この度、第 73 回国民体育大会「福井しあわせ元気国体 2018」成年男子の部において、私たち大崎電気は埼玉県代表として２年連続 21 回目（東京都代表２回優勝合計 23 回）の優勝を果たすことが出来ました。

これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡辺オーナーをはじめ社員の皆様、そして埼玉県体育協会、埼玉県ハンドボール協会関係者の方々のご支援、ご声援あってこその結果だと思っております。

また大会開催にあたりご尽力いただいた福井県ハンドボール協会をはじめ日本ハンドボール協会、また地元福井県のボランティアの皆様、成年男子会場の福井市実行委員会、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。

そして何より、日々のトレーニングを行ってきた選手の努力の賜物だと思っています。

国民体育大会は 12 名の大会及びベンチ登録のみ。（国体以外は 16 名ベンチ登録）大会が始まれば怪我をしても選手の入れ替えが出来ないという苦しい中、決勝戦までの４試合、試合に出場している選手は勿論、登録を外れた選手もチームの為に最善を尽くし、２３名の選手が役割を果たしてくれたことに感謝しております。

選手には日頃から FOR THE TEAM! THINKING HANDBALL! というチームスローガンの下、指導しております。

今大会は埼玉県代表としての優勝でしたが、大崎電気としては今シーズン、社会人選手権に続き二つ目のタイトルとなりました。また昨年の愛媛国体から国内タイトル全てを獲得することが出来ています。スケジュール的にチームトレーニングが少ない中での結果であり、すぐに日本リーグが開幕し毎週連戦とタイトなスケジュールではありますが継続して優勝できるよう、これまで以上の努力を重ねてこれからも大会ごとに成長し、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。

今後ともご支援、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



成年女子優勝　石川県

北國銀行主将　塩田 沙代

はじめに第 73 回国民体育大会開催にあたり、ご尽力いただきました福井県国民体育大会実行委員会及び日本ハンドボール協会、福井県ハンドボール協会の関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

この度の第 73 回国民体育大会において、６年連続 11 回目の優勝をすることができました。これもひとえに日頃よりご支援･ご声援いただいております、石川県ハンドボール協会ならびにサポーターの皆様方、家族の皆様方、そしてチームの強化に強力なバックアップをしていただいております、安宅頭取をはじめとします、役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

初戦、２戦目は、持ち味である DF から速攻で少しずつリードを広げ、コートに立った７名がそれぞれの役割を果たしながら自分たちらしい戦いをして、準決勝まで勝ち進むことができました。

準決勝では、DF での連携不足で失点する場面が多く、苦しい戦いとなりましたが 60 分間をチーム全員で戦い抜き、29 対 20 で勝利し、決勝へ進むことができました。

決勝では、立ち上がりに相手にリードを許す展開となりましたが、徐々に DF から速攻でリズムを掴み、前半を 14 対 6 で終えました。後半もペースを緩めることなく走り続けて、24 対 14 で勝利し、６連覇を達成する事が出来ました。

この結果に満足することなくこの後続く、日本リーグ、日本選手権に向けて、反省点はしっかりと修正し、さらにチーム力を高めていきたいと思います。そして応援して下さる皆様に恩返しができるように頑張りたいと思います。北國銀行をはじめ、協会、サポーターの皆様方にはこれまでと変わらぬご支援・ご声援を宜しくお願い致します。



少年男子優勝　富山県

富山県少年男子監督　**徳前 紀和**

「支え」

　第 73 回福井しあわせ元気国体にて、多くの皆様方のご支援のおかげで優勝することができました。決勝戦は、三千人は優に超えると思われる大観衆の中、地元北陸高校の福井県との対戦であり、素晴らしい競技場、心温まる歓迎、心のこもった大会運営を締めくくるに相応しい環境の中で、このチームとしての最後の試合を迎えることができました。以前より、「最後の試合はそのような環境の下でできるよう全力を尽くそう」を合い言葉に努力を積み上げてきましたが、正に大観衆と、素晴らしい運営環境、そして対戦相手、すべてが揃う大舞台は、言葉で言い表せない圧巻のものでした。

　振り返りますと、北陸高校さんと氷見高校は、数十年来、互いに競い合い、認め合いながら覇を競ってきたライバルです。私自身、成果が上がらず迷い込んだ時に、志々場総監督から、「良い時もあれば、悪い時もある。しのげ」と頂いたご助言は、座右の銘、支えとなりました。福村監督とは、高校時代からしのぎを削った良き仲間です。今日まで頑張れたのは福村監督の支えのお陰です。洪コーチからはハンドボールの進化について多くを教えて頂いております。

　このような多くの支えのお陰で、しのぐことができ、良い時となりました。特にこの一年、本当に多くの方々の支えの強さを実感することができました。「良い時もあれば悪い時もある」を肝に銘じ、これまでの多方面のひとかたならぬ支えに応えるべく、さらに進化し続けるべく、ハンドボールの街氷見の力となるべく、一層粘り強く努力していきたいと考えています。

　心温まる歓迎、心のこもった大会運営、福井しあわせ元気国体に衷心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



少年女子優勝 三重県

三重県少年女子監督　蛭川 健司

　はじめに、第 73 回福井しあわせ元気国体の開催にあたり、ご尽力賜りました日本ハンドボール協会並びに福井県ハンドボール協会、運営に携わって下さいました全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

　この度、国民体育大会において、初優勝することが出来ました。これも偏に日頃からご支援・ご協力頂いております三重県ハンドボール協会関係者並びに高校関係者、小学から中学にかけ選手達を熱心に指導して下さった指導者の皆様、いつも選手達を支え励まし続けてくださった保護者の皆様、日頃から練習試合や合宿などでお世話になった先生方など、本当に多くの方々のおかげであると思っています。

　さて、今回の国体は選抜チームではなく四日市商業高校の単独チームで臨みました。

　7 月に行われた地元三重インターハイの敗戦を踏まえ、結果を求めるのではなく、力を出し切ることに集中しよう。その為にも仲間と声を掛け合い、目を合わせ、「粘って粘って最後に 1 点差」を合言葉に戦いました。その結果、選手達は失敗を恐れずチャレンジするようになり、自然と笑顔にあふれ、心から試合を楽しんでいる様にみえました。どんな厳しい時間帯でも得点を決めれば笑顔でたたえ合い、失点しても声を掛け合い、直ぐに次へと向かう姿勢はとても頼もしく感じました。

　決勝戦ラスト 4 秒で追いつかれ延長戦に入った場面でも、選手達は気落ちすることなく、「あと 10 分も試合が出来る、この時間を全力で楽しもう、とにかく力を出し切るぞ、最後に笑って終わろう」と前向きな言葉を掛け合っていました。

　決勝戦も含め 4 試合全てに於いて心が一つになった瞬間を感じられた事は、選手にとってもスタッフにとっても思い出深い貴重な時間となりました。

　今後もこの結果に満足することなく、さらに成長していくことが出来るよう「思えば叶う」をモットーに選手と共に努力していきたいと思っています。

　今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

戦　評

◆成年男子準決勝

埼玉県　28(12−8、16−12)20　佐賀県

大会３日目、成年男子準決勝は強豪同士の対戦となった埼玉県と佐賀県の一戦。成年男子準決勝の第１試合は、佐賀県のスローオフで始まった。試合開始直後は両 GK の好セーブもあり０対０が続いたが、前半３分に佐賀県梅本のサイドシュートが決まりゲームが動きだす。埼玉県もエース信太を中心に攻めるが佐賀県の DF を前になかなか点が入らない。佐賀県 GK 岩下の好セーブもあり、10 分までに埼玉県の得点を、１点に抑えるが、埼玉県の守りからの速攻が決まりだし、埼玉県が４対２と差を広げるも佐賀県田中の鋭いステップシュートなどが決まり、15 分には同点になる。しかし埼玉県小澤から柴山のコンビネーションで得点が入り、８対５と３点差となり、佐賀県も八巻の力強いシュートで粘りを見せるが、前半終了前に埼玉県信太のスカイシュートが決まり、前半 12 対８で折り返す。

後半開始後、埼玉県植垣の連続得点で後半５分に５点差まで広がる。佐賀県も松浦の技ありのシュートで４点差につめ寄るも、埼玉県の速いパス回しからポスト小室へのパスが綺麗に決まりシュートにつながった。佐賀県は DF を高めにあげ攻撃的 DF に切り替えるが、埼玉県は宮﨑のカットインシュートで５点差を維持する。埼玉県木村のファインセーブなどもあり主導権を渡さない。後半 15 分、５点差、これ以上はなされたくない佐賀県だがシュートミスが重なり、さらに埼玉県小澤の速攻、元木のミドルシュートなどで差も８点に広がる。佐賀県も必死に食らいつくが、埼玉県の厚い堅守に阻まれた。最後は佐賀県を振り切り 28 対 20 で埼玉県が決勝へと駒を進めた。

◆成年男子準決勝

愛知県　29(13−8、16−11)19　宮城県

大会３日目第２試合成年男子の準決勝は、JHL 加盟チームのトヨタ自動車東日本からなる宮城県と、同じくトヨタ車体からなる愛知県との対戦ということで、どのような駆け引きを見せてくれるか、福井県営体育館に詰め掛けた観客も息を飲んで両者の対決を見守った。愛知県のスローオフからスタートした試合は、開始２分で愛知県藤本のサイドシュートが綺麗にゴールの隅に決まると、その後は一進一退の競り合いが続いた。12 分に宮城県吉田が 7mT を決めて４対４の同点とすると、その後宮城県濱口がシュートを決め逆転した。すかさず愛知県津屋がカットインシュートを決め同点とし、その後も両者一歩も譲らずの戦いが続いた。しかし宮城県は、愛知県の笠原と岡元の 190cm を超える体格を活かした DF をなかなか破ることができず、愛知県藤本のサイドシュートで 10 対６と差を広げられたところで、たまらず 26 分に宮城県がタイムアウトを申請した。ゲームが再開された直後、宮城県堤のジャンプシュートがゴール右隅に決まり反撃にかかるが、愛知県の堅い守備を崩すことはできず、13 対８と愛知県の優勢は変わらないまま、前半終了を迎えた。

後半開始直後、宮城県は、藤村の相手 DF に体を預けながらの技ありシュートや河内のポストシュートなどで巻き返しを図った。愛知県は後半の立ち上がり、オーバーステップやパスのミスが目立ち、そのまま宮城県に追い上げられるかに見えたが、愛知県藤本がスカイシュートやサイドシュートを立て続けに決め、宮城県に傾きかけた流れを食い止めた。宮城県はボールを左右にすばやくパス回ししながらシュートのチャンスをうかがうが、愛知県藤本にパスカットからの速攻を決められ、後半 12 分に宮城県はタイムアウトを取った。その後も玉井の豪快なジャンプシュートなどで必死に粘る宮城県であったが、苦しい展開が続いた。宮城県は GK 西出を投入しこれ以上の失点は防ぎたいところだったが、愛知県は左腕渡部や玉城、吉野を中心に攻撃の手を緩めず、最終スコア 28 対 19 で愛知県が決勝進出を決めた。

◆成年男子３位決定戦

宮城県　26(10−8、9−11、3−2、4−2)23　佐賀県

大会４日目、成年男子３位決定戦は JHL 加盟チームのトヨタ紡織九州からなる佐賀県とトヨタ自動車東日本からなる宮城県の一戦。昨日の準決勝で惜しくも涙を飲んだ両者にとってこの一戦は一歩も譲れない戦いとなった。佐賀県のスローオフで始まった試合は、開始 40 秒、宮城県楪木のポストシュートから動き出した。すぐさま、濱口の豪快なカットインシュートも決まり宮城県が引き離しにかかった。負けじと佐賀県も左腕松浦のミドルシュートや田中の速攻などで２対２の同点とした。その後は両チーム守護神の好セーブもあり、一進一退の攻防が続いたが、14 分に宮城県河内のスカイシュートが出ると、華麗なプレーに福井県営体育館の観客からは大きな拍手が沸き起こった。16 分に宮城県楪木のポストシュートが決まり７対４としたところで、すかさず佐賀県がタイムアウトを要求した。ゲーム再開後、佐賀県梅本がサイドシュートをゴールコーナーに突き刺し、立て続けに鈴木が速攻を決め７対６と詰め寄ったところで、21 分に宮城県がタイムアウトを取った。その後も両チームまったく譲らず、互角の展開が続き 23 分に宮城県河内の速攻からのループシュートが決めた後、すかさず佐賀県田中の鋭いフェイントからのシュートや八巻のカットインシュートを決めるも、反撃及ばず前半 10 対８と宮城県リードで折り返した。

後半開始後、佐賀県は梅本の速攻や八巻のジャンプシュートで 11 対 11 とついに追いつき流れを引き寄せようとしたが、宮城県も佐藤のサイドシュートや堤のフェイントシュートで引き離そうとした。その後も佐賀県は梅本の連取で 14 対 14 の同点とし必死に食い下がる。シーソーゲームは続き、19 分に宮城県濱口が振り向きざまにシュートを決め 17 対 16 としたところで、佐賀県がタイムアウトを申請した。残り５分となったところで１点差という拮抗した試合展開であったが、佐賀県は GK 岩下のファインセーブや田中のカットインシュートで追い上げにかかり、残り４秒で荒川がシュートを決め 19 対 19 の同点としたところで試合終了のホイッスルがなった。

延長戦前半、宮城県堤がサイドからセンターに移動し強烈なシュートを決めるとすかさず、佐賀県松浦もジャンプシュートを決め 20 対 20 とした。佐賀県に１人退場者が出た隙に、宮城県は差を広げようと必死に畳み掛け、堤、濱口が確実にシュートを決め、22 対 21 と宮城県リードで延長戦前半を終えた。延長戦後半 33 秒で佐賀県に 7mT が与えられ、鈴木がゴール右隅に決め同点とし勝負の行方はいよい

戦　評

よ分からなくなった。宮城県佐藤のサイドシュートがゴールネットを揺らし、濱口のスカイシュート、堤の気迫あふれるシュートが決まるとこれが決定打となり、宮城県が佐賀県を26対23で振り切り、宮城県が3位入賞を勝ち取った。

◆成年男子決勝戦

埼玉県　24(12−8、12−14)22　愛知県

大会4日目第2試合、成年男子の決勝は昨年の国民体育大会決勝と同じ顔ぶれとなった。JHL加盟チームの大崎電気からなる埼玉県と、トヨタ車体からなる愛知県との対戦ということで、この両者の対決を楽しみに福井県営体育館には大勢の観客が詰め掛けた。埼玉県のスローオフからスタートした試合は、開始30秒で植垣がゴールネットを揺らすと、すぐさま愛知県吉野のミドルシュートで応酬。埼玉県信太が華麗なフェイントでDFを抜き去りシュートを決め会場から歓声が沸き起こると、負けじと津屋もカットインシュートを決め食い下がる。開始8分、埼玉県元木がサイドシュートを決め6対4とし、さらに速攻から埼玉県元木が連取したところで、愛知県はタイムアウトを請求した。タイムアウト後反撃に転じた愛知県は岡元がポストシュートをゴール左隅に沈めた。その後、両チーム守護神のファインセーブもあり、緊迫したゲーム展開が続いた。20分でOFに投入された埼玉県宮﨑がゲームメイクし、元木がGKの動きを見ながらの技ありサイドシュートを決め、さらに玉川が速攻を決め11対7とする。愛知県も藤本のサイドシュートでなんとか追い上げようとするが、埼玉県の森、玉川の体格の良さを活かした堅い守備を崩すことはできず、12対8と埼玉県の優勢は変わらないまま、前半終了を迎えた。

後半開始直後、愛知県吉野がフェイントシュートを決めたが、すかさず埼玉県信太が速攻を決め流れを渡さない。愛知県左腕渡部が3連取し、さらに藤本のパスカットからの速攻も飛び出し14対13と1点差まで詰め寄ったが、埼玉県も左腕東長濱の豪快なブラインドシュートや信太のポストシュートやロングシュートで引き離そうとした。13分には愛知県吉野がジャンプシュートを決め17対15と追いすがるが、負けじと埼玉県も東長濱や信太の9mライン外からのロングシュートで逃げ切ろうとした。愛知県は渡部のカットインシュートや吉野のロングシュートで挽回を図るが、埼玉県元木が華麗なステップワークからのシュートを決め23対19とする。24分に埼玉県がタイムアウトを取りゲームが再開した後、速いパス回しからシュートチャンスをうかがう埼玉県のボールを、愛知県岡元が巧みにパスカットし速攻を決める。愛知県吉野が7mTを確実に決め2点差に詰め寄り、さらに渡部のカットインシュートで1点差にすると、埼玉県は残り21秒でタイムアウトを請求した。最後まで宮﨑を中心に攻撃の手を緩めなかった埼玉県が最終スコア24対22で昨年に引き続き優勝を勝ち取った。

◆成年女子準決勝

石川県　29(14−12、15−8)20　鹿児島県

大会4日目。成年女子準決勝は、どちらも日本代表選手が所属する石川県対鹿児島県の白熱が予想される対戦。石川県のスローオフで試合が始まる。開始早々、石川県横嶋がロングシュートを決め先制する。ここから一気に石川県が主導権を握り、4連取したところでたまらず鹿児島県はタイムアウトを請求。反撃したい鹿児島県も北原、川村の得点で石川県に主導権を渡さない。両県ともに譲らない展開で試合が進み、前半11分7対5で石川県がリードする。なかなか追いつけない鹿児島県だったが前半23分、鹿児島県北原のステップシュートが決まり、11対11の同点とする。鹿児島県がリードを握ろうと積極的に攻めるも石川県の好守で得点することができず、石川県河田の連続得点で前半28分13対11で石川県がリードする。前半残り2分は両県が点を取り合う形となり、14対12石川県リードで折り返す。

後半開始早々、石川県の反則で鹿児島県が7mTを獲得する。得点したい鹿児島県だが、石川県GK馬場のスーパーセーブで点差を縮めることができない。石川県が徐々にペースを掴み、後半10分21対15と点差を広げていく。その後も、鹿児島県に得点を許さない堅守と多彩な攻撃で優勢に試合を進め、後半21分には25対16で石川県がさらに点差を広げる。粘る鹿児島県も北原の3連続得点で反撃するが、石川県河田の連続得点もあり、地力に勝る石川県が29対20で鹿児島県を振り切って決勝戦進出を決めた。

◆成年女子準決勝

広島県　19(9−7、10−10)17　熊本県

大会4日目。成年女子準々決勝2試合目は、昨年の国体準優勝の熊本県と、昨日富山県との熱戦を制した広島県の一戦。先取点は広島県。素早いパス回しから、右サイド三橋が確実に決める。対する熊本県も、前半4分吉田が豪快なロングシュートをねじ込む。3対3で向かえた前半12分、広島県は7mTを獲得し、勝ち越しのチャンスを掴む。しかし、この7mTを熊本県GK宮川がナイスセーブ。広島県に流れを渡さない。このセーブで流れに乗った熊本県は相澤らのシュートで4連取。5対3と逆転する。追いつきたい広島県は、日本代表のGKでもある板野が、熊本県のミドルシュートを再三の好セーブ。GKの奮闘に応えたい広島県。前半21分、相手のミスから木村が持ち前のスピードを活かした速攻で、同点のゴールを挙げる。木村のこのプレーが相手の退場を誘い、熊本県は苦しい時間帯が続く。GKを下げ6人攻撃を仕掛ける熊本県。しかし攻めでのミスが目立ち、広島県石川、眞継に連続で無人のゴールにシュートを許してしまう。ここで熊本県がたまらずタイムアウトを要求。立て直した熊本県は松尾のカットインで反撃するも、9対7と広島県リードで前半を折り返す。

後半開始早々、永田のプレーで獲得した7mTを、吉田が確実に決める。これで勢いに乗った熊本県。石井、永田が続けざまに得点し、10対9と逆転。ベンチが沸きあがる。その後は両者、点を取っては取り返し、緊迫の試合展開が続く。後半9分、拮抗した展開を抜け出したのは広島県。近藤が相手DFに引きずられながらも、気迫のこもったプレーで得点。その後もポストを中心とした攻めで、角屋らが連続得点。後半11分で、15対12とリードを広げる。この流れを断ち切りたい熊本県はタイムアウトを要求。しかし、一度流れに乗った広島県の勢いをとめることはできず、タイムアウト前から含め7連続得点を許してしまう。終盤、熊本県は吉田が奮起

戦　評

し、両チーム最多となる６点目を挙げ、猛追を図るもここでタイムアップ。後半流れに乗った広島県が、粘る熊本県を制し、決勝進出を決めた。

◆成年女子３位決定戦

鹿児島県　26（12−10、14−12）22　熊本県

　大会最終日、成年女子３位決定戦。熊本県と鹿児島県の一戦。熊本県石井のゴール左隅に突き刺さるミドルシュートで幕を開ける。鹿児島県も松村が狭い角度からサイドシュートを決めるなど、両者譲らない。熊本県が永田のポストシュート、川俣の速攻などで３連取。前半 10 分で５対２とリードすると、対する鹿児島県も守りからの速攻を中心にした攻めで、松村、安倍らが立て続けに得点し５連取。前半 16 分、７対５とすぐさま逆転。試合の主導権を渡すまいと、熊本県も前半27分松尾、相澤の速攻で１点差まで詰め寄る。しかし、前半終了間際この日絶好調の鹿児島県安倍のスカイシュートが飛び出し、12 対 10 と鹿児島県のリードで前半を折り返す。
　後半開始早々、熊本県は吉田のステップシュート、相澤の速攻で 13 対 13 と同点に追いつく。鹿児島県も鈴木がキレのあるフェイントで、熊本県の堅い DF を突破。16 対 14 と差を広げにかかる。熊本県も吉田がミドルシュートを連続で決め、後半９分、17 対 16 と逆転。後半 10 分、松尾のカットインで 7mT を獲得。しかしこの 7mT を鹿児島県 GK 飛田がビッグセーブ。このセーブで勢いに乗った鹿児島県は、田村の速攻、鈴木のステップシュートなどで４連続得点。後半 16 分で、20 対 17 と再逆転。流れを変えたい熊本県はここでタイムアウトを要求。タイムアウト後、勝連がサイドから得点を重ね猛追を図る。鹿児島県も OF の手を緩めることなく、山野のサイドシュート、谷のポストシュートなどで得点。熊本県も後半終了間際、7mT を獲得し、この 7mT を吉田が確実に決めるも、ここでタイムアップ。逆転に次ぐ逆転の熱戦を制した鹿児島県が、３位入賞を決めた。

◆成年女子決勝戦

石川県　24（14−6、10−8）14　広島県

　国体成年女子決勝は、国体６連覇を目指す石川県と、第58 回大会以来 15 年ぶりの優勝を狙う広島県との対戦となった。試合は石川県のスローオフで始まる。先取点は広島県石川がサイドシュートを決め試合が動きだす。両県ともに譲らない展開で試合は進み、前半 10 分４対３で広島県が一歩リードするも、石川県河田のロングシュートですぐに追いつく。前半 13 分、石川県深田がサイドシュートを決め逆転に成功する。さらに連続得点し８対４とリードを広げたところで、たまらず広島県はタイムアウトを請求。流れを引き戻したい広島県だが、石川県の堅い DF と GK 寺田の好セーブでなかなか得点できない。前半 21 分、広島県木村（福井県出身）がカットインシュートを決めるも、石川県河田もポストシュートを決め、10 対６で点差を縮めさせない。その後も素早いパス回しと多彩な攻撃で、優勢に試合を進めた石川県が 14 対６と８点リードして折り返す。
　後半に入ると先制した石川県。八十島がサイドからシュートを決めて後半戦が始まる。石川県が優勢に試合を進めようとするも広島県石川、木村の連続得点でそうはさせない。ここから追いつきたい広島県だったが石川県の DF を崩すことができず、シュートを狙うも得点することができない。DF からリズムを掴んだ石川県は鰍場、田邉の連続得点で後半10 分には 19 対８とさらに試合を有利に進める。しかし広島県も木村を中心にゴールを狙い連続得点で反撃に出る。その後は両県、一進一退の攻防で試合が進む。この試合最多７得点をあげた広島県木村の活躍もあったが、最後は広島県の攻撃を振り切った石川県が 24 対 14 で力の差を見せつけて国体６連覇を達成した。

◆少年男子準決勝

富山県　27（14−10、13−9）19　大分県

　大会４日目、少年男子準決勝１試合目。昨日東京都との準々決勝を圧勝で勝ち上がった春選抜、夏インターハイ王者氷見高校が主体の富山県と、岐阜県との一戦にて後半の怒涛の攻めを披露し死闘を制した大分県の戦いは、富山県安平のミドルシュートで幕を開けた。大分県は序盤丁寧なパスワークから牧のポストシュートが連続して決まり、勢いに乗る。対する富山県も負けじと八木のポストシュート、窪田のミドルシュートなどで応戦し、前半 10 分で６対３とリードする。富山県はその後も強固なディフェンスからの二次速攻で清水、八木が連取したところで、大分県はタイムアウトを要求し、流れを変えにかかる。タイムアウト直後に大分県は本日好調の牧がポストシュートを決めるが、富山県も坂のサイドシュートが決まり、両者ともに主導権を握らせまいと懸命にプレーする。前半24分で13対８と富山県がリードするが、ここから大分県は昨日の準々決勝でも大車輪の活躍を見せた大津が 9m 外からのロングシュートを決め、コート、ベンチの選手達が一体となり士気が上がる。しかし、押され気味であった富山県も前半終了間際に八木のポストシュートが決まり、ここで前半終了。14 対 10 と富山県リードで折り返した。
　白熱した一戦の後半開始も前半同様富山県安平の得点から始まった。開始早々富山県は窪田の退場により数的不利に陥るも、ここを GK 戸谷のファインセーブもあり、無失点で耐える。リードされる展開が続く大分県も苦しい時に頼れる大津の連取があり、必死に追いすがる。しかし、後半 15 分で20 対 15 と富山県にリードを許したまま、終盤戦に突入した。終盤になっても攻撃の手を緩めない富山県は坂、朝野のサイドシュートなどで徐々にリードを広げていく。一矢報いたい大分県も利光、佐野を中心としたパスワークから攻撃を組み立てていくが、地力に勝る富山県が最後までリードを許すことなく、27 対 19 で勝利した。

◆少年男子準決勝

福井県　31（16−8、15−9）17　京都府

　大会４日目、少年男子準決勝２試合目。昨日の準々決勝を快勝した京都府と地元の大声援を受ける福井県の試合は、福井県のスローオフから始まった。開始早々、福井県谷口のミドルシュートが決まり、福井県が先制点をものにした。京都府も負けじと伊藤のシュートで得点を返す。そこからは、京都府は 3-2-1DF、福井県は 4-2DF とお互いにアグレッシブな DF によって簡単には得点させない展開となった。しかし、開始 10 分、福井県谷口が２点連取すると、さらに藤坂

戦　評

が速攻からのシュートを決め、福井県は３点連取し、６対２とリードを広げる。試合の流れを変えたい京都府はすかさずタイムアウトを要求。しかし、福井県の勢いは止まらず、前田の速攻からのシュートや巧みなサイドシュートが次々と決まり、前半14分に９対３とリードする。流れを引き寄せたい京都府は、木村、伊藤のロングシュート、大麻のミドルシュートなどで得点を返していく。前半22分福井県谷口のロングシュートが決まると、そこから立て続けに前田の速攻からのシュート、近藤の7mTが決まり、京都府はなかなか流れを引き寄せることができないまま、16対８と福井県リードで前半を折り返した。

後半は開始２分、京都府伊藤が速攻からのサイドシュートを決めた。その後すぐに福井県は、速攻からパスをつなぎ、前田が華麗なスピンシュートを決め、会場を沸かせた。その後、京都府は、素早いリスタートからの速攻や、ポストを絡めたパス回しで攻撃を組み立て、何とか反撃を試みるも、福井県GK高坂を中心とした堅い守りを崩すことはできない。勢いに乗る福井県は、水野がサイドシュートで２連取、治田がロングシュートを決め、後半16分に24対10とリードを広げる。そこからはお互いに点の取り合いになり、激しい攻め合いとなったが、最後までリードを守った福井県が31対17と決勝に駒を進める結果となった。

◆少年男子３位決定戦

大分県　26(11−9、15−10)19　京都府

大会最終日、少年男子の３位決定戦は、どちらも昨日の準決勝で前半でリズムに乗り切れず、惜しくも敗戦した大分県と京都府の対戦となった。ここまで３試合で23得点の大分県大津、同じく18得点の京都府伊藤の打ち合いも見所のこの一戦は、大分県のスローオフで始まった。先制したのは大分県。坂田のサイドシュートで１点目を取ると坂田、浜田の３連続得点で大分県が幸先のよいスタートをきった。京都府も再三ゴールを狙うが、大分県の堅い3-2-1DFで、なかなか得点をすることができず、たまらず前半８分で京都府ベンチは１回目のタイムを取る。その後も京都府はなかなか攻めきることができない試合展開であったが、前半15分に京都府伊藤がようやくゴールネットを揺らし、１対６とする。その後、京都府は息を吹き返しアグレッシブな3-2-1DFから竹原、木村、八田の３連続速攻で５対７と追い上げる。たまらず大分県は前半20分にタイムを要求。勢いに乗る京都府は、前半24分に竹原の速攻で８対８の同点に追いつく。その後お互いに得点を重ね一進一退の攻防が続いたが前半28分、京都府八田の退場の間に、大分県利光のカットインシュートで点差を広げ、11対９で前半を終了。

後半は、大分県園田のポストシュートで点差を広げるが、すかさず京都府も木村の２連続得点でくいさがる。しかし、大分は大津のロングシュートや堅いDFからの速攻などでじわじわと点差を広げ、後半10分で16対12と４点差に。大分県は佐野のカットインや牧の速攻で一時５点差まで広がったが、京都府も大麻のサイドシュート、木村のロングシュート、木下のサイドからのスカイプレーなどで、点差まで詰め寄り、後半20分で19対16。その後お互い得点を取り合い、残り３分で23対18。ここで、京都府はタイムアウトをとり、オールコートマンツーマンを仕掛けるが、大分県の勢いを止めることができず、26対19で大分県が勝利し、３位入賞を獲得した。

◆少年男子決勝

富山県　28(14−12、14−15)27　福井県

大会５日目少年男子決勝は、春の選抜・夏の総体を制し三冠を狙う氷見高校からなる富山県と、地元福井県の大応援団を背に８年ぶりに国体決勝の舞台へと戻ってきた北陸高校単独の福井県の対決となった。決勝の会場となった福井県営体育館には3,000席を優に超える観客が訪れ、両者の対決に熱気あふれる声援を送った。

福井県谷口と富山県清水のミドルシュートの応酬で始まった試合は、武良の速攻プレーで退場を誘った福井県が先行し富山県が追いかける展開。一進一退の攻防は前半15分で両雄譲らず６対６のイーブンスコアとなった。4-2DFとGK笹本のファインセーブで富山攻撃陣を押さえ込んでいた福井県であったが、富山県八木のポストシュートと速攻で逆転され、今度は追う立場となった。富山県の安平が巧技で加点し、福井県は治田などのサイドシュートで反撃。息詰まる攻防は残り５分となっても10対10の同点のまま。しかし、終了間際に富山県安平がミドルを連発し、前半は14対12と富山県がリードして折り返した。

早いパス回しでDFを揺さぶる福井県と、安平・窪田のミドルを軸に攻め立てる富山県。5-1DFにシフトチェンジした福井県は、谷口・武良のシュートブロックから藤坂の速攻を絡めた連取で追いつき再び同点。後半10分で18対18のタイスコアとなった。中盤の退場機に加点できず、逆にリードされた福井県は、谷口のステップ治田のカットインで追い縋るが、このゲーム絶好調の清水の活躍などで逃げる富山県は後半17分で23対20と遂に３点差。苦しくなった福井県はGKをベンチに戻しての７人攻撃も含め、打開策を模索するが、国内トップレベルの得点力を持つ富山県は、動じることなくバックプレーヤー全員が交互に得点し、依然３点差のままで時間が経過し残り５分となる。司令塔安平へのマンツーマンで得点は止まったものの、しっかりと時間を使いきった富山県が肉薄する福井県を振り切って、最終スコア28対27で見事国体制覇と高校三冠を成し遂げた。

◆少年女子準決勝

東京都　20(7−10、13−9)19　山口県

大会３日目、少年女子準決勝の第１試合は東京都のスローオフで試合開始。前半１分、東京瀧川の豪快なロングシュートにより先制すると足を使った3-2-1DFから速攻で連取する。山口県は前半７分に初得点すると松浦の切れのあるフェイントから7mTを獲得し、これをきっちり決めて３対２と追いかける。ミスが続き流れにのれない東京都は前半11分に山口県に逆転を許すと、７人攻撃で反撃を図るもミスが重なり思うように得点が取れない。６対３と山口県がリードしたところで東京都はタイムアウトを取り陣形を立て直す。両者堅いDFで簡単に得点を許さない状況が続き前半26分、９対６と山口県のリードは変わらず、緊迫した試合展開となる。終盤、山口GK田村の好セーブから速攻で得点すると、

戦　評

東京都も７人攻撃ですぐさま追いかける。前半終了間際に山口県はタイムアウトをとり、前半最後の攻撃にかかるも得点を決められず、10対７と山口県のリードで前半を折り返す。

後半開始は両者ともよく足が動きアグレッシブなDFをする。山口県は相手のミスから速攻で点数を決め始めるが、東京瀧川が豪快なシュートで一進一退な展開が続く。東京都は７人攻めを行うが決めきれず、ミスから山口GK田村のロングシュート、岡田スカイプレーで会場を沸かせた。東京都は激しいコンタクトDFで点数を許さず、点差を縮めていく。19分に東京阿部、村井のシュートで16対16に追いつく。山口県はノーマークシュートを放つが東京GK佐藤の好セーブで点数が決まらない。24分過ぎに東京都の退場で流れが変わるかと思われたがチャンスを生かすことができず、お互いGKのファインセーブで均衡状態が続く。残り１分で山口県は7mTを決め19対19と追いつく。しかし残り30秒で山口県が退場者をだしてしまい、東京瀧川の豪快なミドルシュートが決まり東京都が劇的な勝利で試合が終了した。

◆少年女子準決勝

三重県　19(12－7､7－5)12　愛媛県

大会３日目、少年女子準決勝の第２試合は三重県のスローオフで試合開始。愛媛県の大澤の速攻で点数を決める。三重県は服部のミドルシュートで応戦。さらにノーマークを作り確実にシュートを決め５対２とリードする。愛媛県は7mTのチャンスで流れを掴みたいが、三重県GK伊藤のファインセーブで苦しい展開が続く。三重県はシュートをしっかり決め前半19分で９対４と点差を広げていく。愛媛県は激しいコンタクトDF、内藤、大澤のカットインで点差を縮める。しかし、三重県の勢いは止まらず、12対７で５点リードを保ち前半戦終了した。

エンドが変わって後半、勢いにのる三重県は南川のゴールで後半幸先のよいスタートを切る。追いつきたい愛媛県は負けじと戸山のサイドシュートで必死に食らい付く。後半８分、15対８となったところで愛媛県は退場者を出してしまい、タイムアウトを申請。２分間退場を無失点で乗りきった愛媛県は、その後７人攻撃で流れを変えようとするもボールがつながらない。後半14分、三重県に退場者が出たことを機に、愛媛県は大澤、戸山の連取で点差を縮める。その後一進一退の攻防が続き、後半24分18対12となり、愛媛県は３回目のタイムアウトをとり最後の反撃にかかる。しかし、三重県の勢いをとめることができずゲーム終了。終始優勢に試合を運んだ三重県が19対12で愛媛県を下し、決勝に駒を進めた。

◆少年女子３位決定戦

山口県　29(19－9､10－11)20　愛媛県

大会４日目、少年女子３位決定戦の試合は山口県のスローオフで試合が始まる。愛媛県加島の速攻で先制点を獲得する。山口県は山根の豪快なミドルシュートで得点し、さらにGK田村のファインセーブで流れに乗り、前半５分５対２とリードする。愛媛県は宇治村を中心にロングシュートを放つが、山口県GK田村の好セーブでなかなか得点出来ない苦しい状況が続く。一方、勢いが止まらない山口県は川崎のポストシュートにより前半15分10対６と突き放す。追いつきたい愛媛県はポストを利用したコンビネーションプレーを行うが、ミスが目立ち山口県に逆速攻を許してしまう。山口県の勢いが止まらないまま前半19対９と大きくリードをしてハーフタイム突入。

エンドが変わって後半、愛媛県内藤のミドルシュートで先制し、２度の7mTのチャンスを獲得するが、山口県GK田村に阻止され点差を縮めることが出来ない。勢いにのる山口県は大阪が退場するが、橘高のミドルシュートで後半10分23対13とする。追い上げを図る愛媛県は戸山の7mTで６点差へと縮めるも、山口県は岡の得点でリードを保ったままゲーム終盤を迎えた。愛媛県は樋口のシュートで最後まで粘りを見せるが、29対20で山口県が勝負を決めた。

◆少年女子決勝戦

三重県　21(11－7､5－9､2－1､3－2)19　東京都

大会４日目、少年女子決勝戦は東京都のスローオフで試合が始まる。三重県の南川のミドルシュートで先制点を獲得するも、東京都エース瀧川の豪腕なシュートで２連取し、開始５分３対１で東京都がリードする。しかし三重県も東京都のアグレッシブな3-2-1DFを服部のカットインで崩し10分で４対３と逆転する。一方で、流れを掴みたい東京都は横山がパスカットからの速攻チャンスを作るが、得点に繋げることが出来ず、流れを掴めない苦しい状況が続く。三重県のGK加藤は7mTを好セーブし、勢いを保ったまま中西の速攻などで得点を重ね10対７とする。ゲーム終盤、東京都は植松を中心に７人攻撃で得点に繋げるが、三重県に7mTを許し、11対７三重県のリードで折り返した。

エンドが変わって後半、開始早々勢いにのる三重県中西の得点で東京都を突き放しにかかるが、東京都も積極的にコンタクトDFを行い、自分達のリズムを作り、村井のポストシュートで13対11と追い上げる。後半15分、お互い激しいDFで得点を許さず一進一退の状況が続く中、三重県の南川の巧打で力の差を見せつける。ゲーム終盤、東京都エース瀧川の豪快なミドルシュートで同点へと追いつく。残り30秒三重県南川のミドルシュートで得点すると、残り５秒で東京都佐藤の気迫のシュートで延長戦へと持ち込む。

延長戦、三重県川島のパスカットからの速攻で先制するも、東京都村井のポストシュートで得点しシーソーゲームとなる。息詰まる熱戦の中で、三重県の山本の速攻で得点し、更に南川､川島のシュートで21対19と突き放し､リードを保ったままインターハイ女王を下し、三重県が平成最後の国体少年女子優勝を飾った。

第24回 世界学生選手権

開催期間　2018年7月30日～8月5日
開 催 地　クロアチア・リエカ

最終順位

【女子】
優勝：日本
2位：ブラジル
3位：韓国
4位：ポーランド
5位：スペイン
6位：チェコ
7位：ルーマニア
8位：クロアチア
9位：ウルグアイ

【男子】
優勝：韓国
2位：クロアチア
3位：日本
4位：ポルトガル
5位：エジプト
6位：チェコ
7位：ルーマニア
8位：ポーランド
9位：リトアニア
10位：チャイニーズタイペイ

女子日本代表 U-24 チーム
第24回世界学生選手権メンバーリスト

役職	名前	所属
チームリーダー	樫塚正一	(公財)日本ハンドボール協会 全日本学生ハンドボール連盟
監督	楠本繁生	(公財)日本ハンドボール協会 大阪体育大学
コーチ	齊藤慎太郎	(公財)日本ハンドボール協会 大同大学
ドクター	有田忍	(公財)日本ハンドボール協会 小波瀬病院
トレーナー	田中健一	(公財)日本ハンドボール協会 株式会社 PEPOsaka
アナリスト	芳村優太	(公財)日本ハンドボール協会
総務	市瀬祐樹	(公財)日本ハンドボール協会 駿河台大学

背番号	名前	所属	出身校
1	馬場敦子	北國銀行	大阪体育大学
3	北原佑美	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀﾏﾆｭﾌｧｸﾁｬﾘﾝｸﾞ	大阪体育大学
4	木村有沙	広島メイプルレッズ	大阪体育大学
5	近藤万春	広島メイプルレッズ	大阪体育大学
6	佐原奈生子	北國銀行	大阪体育大学
7	谷華花	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀﾏﾆｭﾌｧｸﾁｬﾘﾝｸﾞ	大阪体育大学
10	永塚梓	大阪ラヴィッツ	日本体育大学
11	服部沙紀	大阪体育大学	四日市四郷高校
12	犀籐菜穂	大阪体育大学	高岡向陵高等学校
15	堀川真奈	広島メイプルレッズ	大阪教育大学
17	松本ひかる	北國銀行	大阪体育大学
13	初見実椰子	東京女子体育大学	佼成学園女子高校
35	中山佳穂	大阪体育大学	夙川学院高等学校
39	笠井千香子	大阪体育大学	高岡向陵高等学校

男子日本代表 U-24 チーム
第24回世界学生選手権メンバーリスト

役職	名前	所属
チームリーダー	福地賢介	(公財)日本ハンドボール協会 全日本学生ハンドボール連盟
監督	Nemes Roland	(公財)日本ハンドボール協会 法政大学
コーチ	豊田賢治	(公財)日本ハンドボール協会 国士舘大学
ドクター	有田忍	(公財)日本ハンドボール協会 小波瀬病院
トレーナー	薄勝也	(公財)日本ハンドボール協会 医療法人健佑会いちはら病院
アナリスト	髙橋豊樹	(公財)日本ハンドボール協会 トヨタ車体株式会社
総務	市瀬祐樹	(公財)日本ハンドボール協会 駿河台大学

背番号	名前	所属	出身校
1	中村匠	福岡大学	岡魁誠高校
2	田中圭	日本ハンドボール協会	筑波大学
3	田中大介	トヨタ紡織九州	日本大学
4	水町孝太郎	豊田合成	日本大学
5	瀧澤尚也	大同特殊鋼	明治大学
6	山口勇樹	筑波大学	熊本国府高校
7	牧野イサム	筑波大学	松陰高校
9	庄子直志	湧永製薬	国士舘大学
10	川島悠太郎	北陸電力	早稲田大学
11	堀広輝	豊田合成	筑波大学
12	岡本大亮	トヨタ車体	中部大学
13	小澤基	日本大学	函館有斗高校
14	後藤悟	湧永製薬	大阪体育大学
15	北詰明未	中央大学	昭和学院高校

大会報告

デレゲーションリーダー　福地 賢介











　2018年7月30日～8月5日、クロアチア・リエカ市（ザグレブから約140km。アドリア海に面したクロアチア第三の港湾都市）で開催された2018世界学生選手権大会で、男子は19回目、女子は11回目の挑戦で、学連史上初の女子が優勝、男子が第3位の好成績を残すことが出来ました。

　今回は男女スタッフの前回（スペイン大会）の経験から対外国人対策として、直前合宿で海外チームと対戦したいとの希望があり、日本協会の協力もあって、男子はローランド監督の、また、女子は楠本監督の縁で共にハンガリーでの合宿が可能となりました。男女チーム共に7月23日に男子は成田（イスタンブール経由）・女子は関西空港（ドバイ経由）から夫々ハンガリーに向かい現地で4日間調整した後、28日バス移動でリエカに入りました。

　詳しい競技関係に関してはスタッフの報告を参照としますが、この直前合宿にて時差調整と外国人との試合の感覚をつかみ、今回の成績を残す一因ともなりました。

　FISU規定では、当初、参加選手団構成はスタッフ6名・選手16名との事でしたが、3月のエントリー時にスタッフ4名・選手14名と変更となり、16名編成での選手選考構想を持っていたため、急遽14名選抜へとの変更によりスタッフも苦労し、男子は、6月12日の最終エントリーまで決定できませんでした。

　女子はエントリー締切り直前に選手の怪我があり、急遽、差し換えを余儀なくされるような事態もあってフライト確保が大変でした。

　大会日程は、過去の例からすると予選リーグ・休息日・順位決定戦の日程であるが、今回は休息日がなく、男子は6連戦を余儀なくされました。この点に関してはテクニカルミーテイングの時に大会OCやFISUに抗議が出たほどでした。

　男子は、そのハード日程をメデイカルスタッフのケアとスタッフの選手起用と、選手の頑張りで乗り切り、特に、三位決定戦では、後半残り10分位から疲労のためかスピードの落ちてきた処をポルトガルの追い上げを受けました。しかし、大会優秀GKに選出された岡本の堅守とDF陣の頑張りで追い上げを振切り三位を獲得しました。

　女子は予選リーグでブラジルの大型ポストに苦しめら

れ敗れましたが、決勝トーナメントを共に勝ち上がり、決勝戦は予選リーグの再戦となりました。

日本は立ち上がりにやや硬さからかシュートミスなども見られましたが、10分過ぎから持ち直し１点を争う展開となり、前半を１点のアヘッドで終了。後半に入ると全員ハンドボールでスピードある展開を見せてペースを掴み、ブラジルのポストを堀川・北原・松本の３人掛りで封じ、GK馬場の好守を背景に、スピード豊かに両サイド、ミドル、カットインなどを決め、最後は８点の大差をつけて優勝をつかみ取りました。個人的な事ですが、男女共に勝利を信じながら残り５分の時間経過のもどかしさがあって、今までに経験したことない長い５分間でした。

男女ハードな日程の中で選手の健康管理に注力してくれたメディカルスタッフの献身的なケア、対戦相手のチーム力の分析に頑張ってくれた情報分析スタッフと現場スタッフのチームワークが、選手の頑張りとともに今回の成績となっています。

競技以外をみると､大会宿舎はリエカ大学の学生寮（選手１部屋２名）で、入口は一つであったが、中は２部屋形式になっているタイプで、居住性にはそれ程の支障はなかったが、エアコンの調整には難儀をしました。食事面は、野菜の量やメインデッシュの種類が少なく、コーヒーなどは有料でした。また、日本の試合開始時間が予選リーグは４試合全部14時開始であり、昼食時間帯に対応できず（規則で準備できないとされた）ランチボックスで乗り切りましたが、その他の面と合わせ過去の大会と比較すると決して満足できるものではありませんでした。

大会ポスターやプログラムもなく、大会PRがどこで行われているかも不明とか、観戦者対応も不備で、折角、日本から応援に来られた保護者の方にも満足できるものではなかったと思われます。

女子の日本ー韓国戦では、審判に対して韓国女子監督が審判への過度のアピールや不適切な発言で退場となり裁定委員会にかけられたりしましたが、レフェリングは厳し目でした。この裁定委員会に市瀬祐樹君（全日本学連国際交流員会）が任命されました。FISUの競技（TD他）関係に既に韓国が１名を送り込んでおり、今後は、若い世代のFISU入りも積極的に進めたいと思っています。

最後に、日本協会、JHLチーム、各大学、各企業、その他多くの方々のご支援、ご協力に感謝とお礼の意を表させて戴き報告といたします。













女子日本代表 U-24 監督　楠本 繁生

平成 30 年 7 月 30 日～ 8 月 5 日クロアチア・リエカで開催された世界学生選手権に出場し、初の金メダルを獲得することができた。

予選 3 試合・準決勝・決勝の計 5 試合を戦い抜いてくれた選手達とスタッフの仲間、事前合宿や遠征でお世話になった方々・ハンドボール協会・学連の皆様をはじめ多くの関係者に感謝の気持ちでいっぱいです。

大会を終え、選手達には「この経験を活かし、更なる努力を積み重ねて大きく飛躍してもらいたい」と激励の言葉を送らせてもらった。と同時に、私自身も指導者としてより一層頑張らなければと言う気持ちを持たせてもらうことができた。

今後もコツコツと一歩一歩前進していきたいと思っております。

チャンスを頂けたこと、本当にありがとうございました。

女子日本代表 U-24 キャプテン　堀川 真奈（広島メイプルレッズ）



私たちは大会に参加するにあったって、最初に選考会が行われ、約一か月前にメンバーを固定しての強化合宿が始まりました。主にU20 女子と一緒に練習し、北陸高校男子や北國銀行さん、女子フル代表とのトレーニングマッチをして、ハンガリーに向かいました。

ハンガリーではプロチームとのトレーニングマッチを行い、そこで私たちは改めてフィジカルの差を感じました。今まで練習してきた DF が通用せず、フィジカルの強い相手に簡単にシュートまで行かれてしまいました。これまで日本人相手に練習をしてきて、海外チームを意識して練習しようとは心がけてきてはいたものの、実際に体格の違う海外選手を目の前にしてみると、イメージ通りにはいきませんでした。しかし、ハンガリーでトレーニングマッチを 3 回させてもらったことで課題がはっきりとしました。

それからクロアチアに移動し、課題である DF、ずっと練習してきた 7 人攻撃の確認を中心に最終調整を行い、

初戦に挑みました。初戦の相手は開催国のクロアチアということで、大会で最初の試合でもあり、またアウェーの中戦うということで、ほとんどの選手が緊張していました。そしてこれから続く試合に勢いをつける為には、この初戦を良い結果、良い流れで終えなくてはならないというプレッシャーも感じていました。試合開始、緊張からか、出だしからミスが目立ちましたが、だんだんと DF が機能し、DF から速攻の展開を作ることができて初戦勝利することができました。初戦が大事だと全員が思っていただけに、点数は少し開いて勝つことができましたが、試合が終わると、少しほっとしたことを覚えています。

今大会のグループリーグ中は連戦ではなく、空き日を挟んでいたので、試合の準備をして挑むことができました。しかし、3 戦目のブラジル戦では、ポストの 190cm 以上ある選手に対して、警戒しながら試合に臨みましたが、8 得点も取られてしまいました。自分達の得点源としている DF から速攻もなかなか決まらず、自分達の流れに持っていくことも出来ないまま負けてしまいました。分かっていた相手のプレーを止めきれなかったことと、全く自分達の流れに持っていくことができなかったことがとても悔しかったです。この悔しさを全員が持ちながら、同時に気持ちの切替えを行い、次の準決勝に向かいました。準決勝は宿敵の韓国。やはり韓国というと意識してしまいますが、私達は目の前の一戦一戦を大切に、そして自分達のプレーをしようと心がけました。気づくと 7 点差開いて勝つことができ、目標であったメダル獲得が叶いました。

決勝はグループリーグで負けているブラジル。負けた試合での自分達のダメだったとこは分かっていたし、相手の特徴も分かっていた為、あとは修正してそれを試合に出すだけでした。前半は悪い展開ではなかったが、ミスが目立ち 1 点差で負けていました。後半は守って速攻や 7 人攻撃で点を重ねることができ、DF では長身ポストにボールが渡らないように守り、ポストを 1 点で抑えました。コートの中とベンチ、そして男子チームの応援、みんなが一体となって戦い、優勝することができました。笛が鳴った瞬間を今でも忘れません。嬉しかった反面、本当に優勝したのか信じられませんでした。日本に帰国し、関西空港で沢山の方が出迎えてくれ、『おめでとう』と声を掛けてくださり、やっと優勝したことに実感が湧いてきました。日本から沢山の方が応援して下さったことに感謝しています。

今思えば、ハンガリーでのトレーニングマッチ、ブラジル戦に 1 度負けたこと、そして前回大会の悔しさ、それらの経験が優勝に繋がったと思っています。この優勝という結果に満足することなく、それぞれが経験したことをこれからどう活かしていくかが大事だと思っています。本当に沢山の応援ありがとうございました。



男子日本代表 U-24 コーチ　豊田 賢治

【はじめに】

2018 年 7 月 30 日からクロアチア・リエカで開催されました世界学生選手権に於いてコーチという機会を与えて頂けたことに感謝します。また日本ハンドボール協会、全日本学生連盟の皆様方はもとより選手所属チームの監督、ご家族、そして福地団長をはじめ、大会準備からご尽力を賜りました皆様方、ウェアー提供、ボール等の用具提供、トレーニング会場の提供等、数多くの方々のご支援、ご協力を頂き深く御礼申しあげます。

【U-24 日本代表チームの活動を通して】

今回の U-24 男子日本代表チームは限られた合宿ではありましたが、戦術の共通理解を重点に非常に内容の濃いトレーニングが行え、良い準備が出来ました。特に大会直前に行ったハンガリー遠征では、徳田新之介選手所属のハンガリー 1 部の Dabas とのトレーニングマッチでは現状の日本チームを知る上で、とても実りある合宿となりました。

大会に入り、予選リーグではルーマニアに惜敗したものの韓国・ポーランド・チャイニーズタイペイに競り勝ち、グループ 1 位通過を果たしました。中でも韓国との一戦では、決勝リーグを戦う上で非常に良い戦い方が出来ました。決勝リーグでは地元クロアチアとの準決勝となりましたが、選手たちは精一杯、戦う姿勢をみせたものの無情にも 1 点差と惜敗し、3 位決定戦に進みました。「日本にメダルを」という強い思いを胸に挑んだポルトガルとの一戦では、最後の最後まで集中力を切らすことなく戦った結果、見事勝利し、銅メダルを獲得することが出来ました。東京オリンピックを意識している選手たちにとっては、この上ない経験となりました。

最後に 3 位決定戦を終えた直後の女子決勝戦では、男子選手が疲労困憊の中、声を枯らしながら応援していた姿をみて、此の程、合理的ではない指導や事件が多発している日本のスポーツ界ではありますが、本来のスポーツ在り方や良さを学ぶことが出来ました。本当にありがとうございました。

男子代表 U-24 主将　田中　圭

【Croatia WC】

国内合宿から欧州遠征を経て、14 名の選手と監督コーチ、スタッフでこの大会に臨みました。この大会での目標としては「メダルの獲得」を掲げ、どのチームよりも楽しくハンドボールをすることが日本チームの姿勢でした。

予選リーグを 1 位で通過し、準決勝で開催国クロアチアに 1 点差で負けてしまいましたが、3 位決定戦でポルトガルに勝ち切り、日本史上初となるメダルを母国に持ち帰ることが出来ました。個人としてもチームとしても世界でメダルを獲得したのは初めてのことで、喜びや達成感を感じながらも、どこかぎこちなさがあったことを覚えています。

メダル獲得の要因としては、全体ミーティングで戦術の確認は勿論のこと、時間を取って選手だけで集まり、試合の方向性やアイデアを出し合いながら意思疎通を取れたことが最大の要因ではないかと思います。また、合宿・遠征・大会期間中は禁酒、食事中には携帯を使用しないなど、ルールを徹底することで互いの信頼を得られチームの成長に繋がったのだと思います。

学生の大会とはいえ、日本男子チームは前回大会 4 位に入っており、実業団選手と学生選手の選抜チームを結成して大会に乗り込んでいます。多少なりともプレッシャーを感じていました。しかし、本番で 100%の力を出し切って結果を残すことが出来ました。選手・監督コーチだけが決して掴んだ結果ではなく、選考会を通して切磋琢磨したメンバーもたくさんいます。選手の怪我の対応や体のメンテナンスをしてくださったトレーナー。試合の分析・対戦相手のスカウティングをしてくださったアナリスト。合宿の調整や大会でのサポートといった多くの方々の支えにより、私たちはメダルを手に入れました。ここで多くの皆様方に感謝申し上げます。

【最後に】

近年ユース・ジュニア世代では、アジア大会ではメダルを獲得し、世界大会で上位進出を目指すことが当たり前の様になってきていると感じています。そこで、A 代表の下である U-24 が世界の舞台で 3 位に入ったことはこれからの日本ハンドボール界にとって、とても意味のあることだと思っています。いつこの結果を追い越されるのでしょうか。とても楽しみです。

今回、主将として日本代表としてこのチームでプレー出来たことを誇りに思います。ご声援ありがとうございました。

女子【戦評】

■予選リーグ：7 月 30 日（月）

日本　31（15 − 8、16 − 9）17　クロアチア

試合開始時間が朝 8 時という、これまで体験したことがない時間帯でのゲームであったが、初戦が最も大事であるとのチームミーティングで確認した通り、日本は十分な準備で試合に臨んだ。開始早々、日本は近藤のスピード感あふれる速攻で先制するが、相手も7mTですぐに追いつく。これに対して日本は、初見の獲得した 7mT をクロアチア GK が好セーブ、続く日本のノーマークシュートも相手 GK に連続セーブされリズムが掴めないまま、焦りが出始め、テクニカルミスも頻発した。その間クロアチアは No.15 のエースが得点を重ねて 5 対 2 とリードを広げる。日本は 7 人攻撃を展開するが、またしてもミスから簡単に失点してしまう。しかし、前半の中盤、近藤、服部の速攻を皮切りに、6 連続得点をあげ一気に 10 対 6 と逆転に成功する。DF のリズムが良くなり始め、相手のミスからの速攻が出始め、15 対 8 と大きくリードして前半を終えた。

後半開始早々、またもや近藤の速攻で日本が波に乗ると、この日好調の初見のカットイン、速攻などで一気に 20 対 10 と得点差を広げる。足の止まったクロアチアに反撃する勢いはなく、日本の左腕のエース中山が強烈なミドル、初見のポストなどで着実に加点し、終わってみれば 31 対 17 の大差で目標の初戦勝利を達成した。

■予選リーグ：8 月 1 日（水）

日本　29（15 − 13、14 − 10）23　チェコ

第 2 戦は予選リーグ敗戦スタートのチェコとの一戦。日本は開始早々に中山の豪快なディスタンスで先制すると、対するチェコも No.19 のサイドで応戦する。日本は、近藤のスピードのある突破から追加点を挙げると、チェコも日本の退場を機にすぐさま追いつく。一進一退の攻防の中、日本は相手のミスから速攻をしかける。さらに 20 分 6 対 4 の場面から近藤、松本の速攻でさらに差を広げる。チェコも No.7 のディスタンスから 4 連続得点を挙げ、日本に追いすがる。日本も笠井のカットイン、この日好調の近藤が大型 DF の間を突破してチーム 15 点目を挙げ、前半を 15 対 13 と 2 点リードで折り返す。

後半に入るとチェコは連続のディスタンスで同点に追いつく。しかし、日本も中山のディスタンス、近藤のカットインで突き放す。チェコのエース No.23 のディスタンスに対し、日本の GK 陣がなかなか対応できず追加点を許す。日本は 2 点リードの中、1 名退場するピンチを迎えるが、近藤の速攻から連続 4 得点を挙げ試合の流れをつかむ。後半 20 分過ぎ、日本はこの試合絶好調の近藤が速攻、ポストとコート内を縦横無尽に動き回り得点を重ね、29 対 23 で勝利、2 勝目を手にした。

■予選リーグ：8 月 3 日（金）

日本　24（11 − 14、13 − 15）29　ブラジル

予選リーグ最終戦、日本は 2 勝、ブラジルは 1 勝 1 分け、勝利した方がグループ 1 位通過となる大事な一戦。日本は LW 松本、LB 北原、CB 谷、RB 中山、RW 服部、PV 近藤、GK 馬場の布陣で臨んだ。立ち上がり日本が近藤の速攻で先攻する。対するブラジルも No.9 がカットインを決めすぐに追いつく。20 分までは日本が常にリードする展開であったが、シュートミスから同点に追いつかれると、ブラジル No.4 の連続得点から一気に 3 点差に広げられる。日本は前半を 11 対 14 の 3 点差のビハインドで折り返した。

後半はブラジル No.9 のカットインで始まる。取り返そうとする日本は、サイドシュートを連続で相手 GK にセーブされる。ブラジルは後半も大型ＰＶにボールを集めて得点を重ねる。逆に日本は中山、北原のバックプレーヤー陣がディスタンスを狙うが、ブラジル中央 DF の大きな壁にシャットアウトされる。それでも日本は中盤、疲れの見えてきたブラジルに対して DF から木村、堀川らの速攻で 1 点差まで詰め寄る。しかし、ここ一本で相手のＰＶに押し込まれてしまう。最後はＰＶに対して DF を厚くした所を連続のディスタンスを決められて万事休す。24 対 29 での痛い敗戦となった。しかし日本は、グループリーグを 2 位で通過することができたため、明日の準決勝に進出、メダル獲得の可能性を残すこととなった。

■準決勝：8 月 4 日（土）

日本　28（16 − 12、12 − 9）21　韓国

女子準決勝は、日本対韓国のアジア勢同士の対決となった。韓国は先に行われた女子ジュニア世界選手権大会で 3 位となった主力メンバーを含め、国際経験豊富な選手で構成された強敵である。日本は、開始早々から韓国のスピードのある 1 対 1 で崩され、DF の間を突破される不安な立ち上がり。しかし、中山のステップ、服部の速攻などですぐに追いつく。韓国は司令塔の CBNo.9 がテンポの良いパスワークから PV とのコンビで得点を上げると、日本も近藤の速攻、初見のカットインで一進一退の攻防が続く。前半残り 5 分から谷のポスト、服部の速攻、さらに谷の連続得点で一気に 4 点差をつけて前半を終了する。

後半に入っても攻撃の手を緩めない日本は、服部のサイドなどで 3 連続得点する。韓国のエースで現在得点ランキング 1 位の No.19 の 1 対 1 をしっかりと抑え、積極的な DF で相手ミスを誘い、速攻に繋いで加点、後半 20 分にはこの試合最大となる 8 点差をつける。途中、韓国の監督の執拗な抗議に対して、レッドカードが出るなど韓国チームに焦りが見え始める。残り 10 分日本のミスから韓国が速攻に繋ぐが、中盤の得点差が響き、最終的には 28 対 21 と日本が決勝進出を決めた。宿敵韓国との一戦に勝利できたことは、今後の両国の対戦においても重要で価値ある試合でなった。

■決勝：8 月 5 日（日）

日本　27（10 − 11、17 − 8）19　ブラジル

決勝戦の相手は予選グループで日本が唯一黒星を喫したブラジル。準決勝でポーランドを逆転で下し、勢いに乗るブラジル

はスタートから大型 PVNo.2 が得点を挙げる。対する日本は、相手のミスから速攻に繋げ何度もチャンスを作るが、シュートミスで得点機を潰してしまう。さらにブラジル No.9 に DF の間を割られ 2 点目を奪われた所で、日本はたまらずタイムアウトを請求。ここから落ち着きを取り戻した日本は、8 分中山のサイドで初得点を上げると、近藤の速攻など 3 連続得点で逆転に成功。対するブラジルもパワフルなディスタンスで再度逆転すると、ここから一進一退の攻防が続く。日本は前半終了間際に近藤と中山のゴールで追いつくが、ブラジルも No.11 のゴールで 11 対 10 とブラジルが 1 点リードで前半を折り返す。

後半に入ると日本は本大会好調の近藤の速攻、カットインで勢いづくと、松本、服部のサイド陣の連続得点で一気に 16 対 12 と 4 点差を付ける。さらに焦るブラジルの単調なシュートを GK 馬場が好セーブ、一気に流れを日本に引き寄せる。前半シュートミスが多かった日本は、後半しっかりと立て直して確実にシュートを決め始めると、残り 10 分にはリードを 6 点に広げる。日本は服部のサイド、中山の豪快なステップなど、攻撃の手を緩めず最後は 27 対 19 の大差を付けて、予選グループのリベンジを果たすとともに見事優勝を果たした。今大会はまさに選手、スタッフ全員のチーム力でつかんだ金メダルで、2019 年熊本女子世界選手権、2020 年の東京オリンピックに向けて良い刺激となった大会でもあった。

男子【戦評】

■予選リーグ：7 月 31 日（火）

日本　29（16 − 12、13 − 13）25　チャイニーズタイペイ

第 24 回世界学生選手権初戦は中華台北との一戦。日本の攻撃から始まり、早いボール回しから選手 1 人ひとりが積極的に攻め、山口のポストで先制した。対する台湾は、各ポジションの 1 対 1 を中心に得点を重ねて行く。その後も日本は山口、川島を中心に得点を重ねて行くが、DF 面での細かいマークミスやチェンジミスが目立ち始め、なかなかリズムを掴めないまま前半を 4 点リードで終える。ハーフタイムで修正ポイントを再確認し、後半に挑んだ。

後半は OF 面でイージーなパスミス、キャッチミスが重なり、悪い流れが続く。45 分過ぎは最大 5 点リードしていた得点も 2 点差まで追いつかれ、一瞬の気の緩みも許されない状況に追い込まれてしまう。悪い流れは 50 分過ぎまで続いたが、牧野が冷静にゲームコントロールし、最終的には決して良い試合展開ではなかったが、前半の点差をキープした形で試合を終えることができた。大会初戦ということもあり、硬さやネガティブな緊張感があった。また、今後のグループリーグ突破を見据えた戦略的な制限もかけた中、しっかりと勝利できたことは評価に値する。

■予選リーグ：8 月 1 日（水）

日本　25（10 − 15、15 − 14）29　ルーマニア

グループステージ 2 戦目は、前回大会王者のルーマニアとの対戦。日本の攻撃からスタートし、出だしの OF から開始 10 分過ぎまで再三にわたりノーマークの場面を作るものの、今大会ナンバーワン GK であろうイオヌットに幾度となく阻止され、ルーマニアのペースで試合は進んで行き、18 分過ぎには 5 対 10 と 5 点ビハインドとなる。日本は、20 分過ぎから牧野、北詰を中心に得点を重ねて応戦するが、点差を縮めることができず、10 対 15 で前半を終える。

後半に入り、川島のサイドが決まり、DF からリズムを取り速攻につなげたいところだったが、ルーマニアの PV ロタル・アドリアンの高さを活かしたプレーに苦しめられ、追いかける展開が続く。15 分過ぎに日本は DF システムを変えて、試合の流れを変えようと試みるも大きく状況を変えるには至らなかった。20 分過ぎに山口の気迫溢れるプレーでこの試合で初めての連続得点を挙げ、田中（圭）も続き 3 連取するが、直後にロタル・アドリアンにこの試合 15 点目となるポストを決められてしまう。残り 3 分を切って堀の連続得点が決まるが、25 対 29 で敗戦となった。

■予選リーグ：8 月 2 日（木）

日本　34（17 − 15、17 − 10）25　ポーランド

グループステージ 3 戦目はポーランドとの対戦。ポーランドの攻撃から始まり、出だしから 2 連取される。しかし日本も牧野、北詰の得点ですかさず追撃する。その後、テンポ良く攻撃を展開し、川島、後藤の両サイドが確実に得点を重ねるも、

ポーランドの高さのある攻撃に苦戦し、前半を 17 対 15 の 2 点リードで折り返す。

後半開始早々、牧野の連続得点でリズムに乗り、徐々にポーランドとの点差が広がる。後半 10 分過ぎからポーランドも 7 人攻撃を仕掛けてくるが、日本は臆することなくアグレッシブな DF を仕掛け、逆に相手のミスを誘う。守っては速攻と常に日本のリズムで進む。後半 20 分には田中（大）、牧野、川島で 4 連続得点を挙げて試合を決める。最終的には 34 対 25 で勝利することができた。

■予選リーグ：8 月 3 日（金）

日本　29（16 − 12、13 − 11）23　韓国

グループステージ 4 戦目は韓国との対戦。日本の攻撃から始まり、北詰の豪快なミドルで先制すると続いて川島の速攻による得点で 2 連取し、幸先の良い出だしとなる。対する韓国もパク・ヴァンスンを中心に得点を重ね、10 分過ぎまで 4 対 5 と拮抗した展開となる。しかし、韓国の 2 分間退場をきっかけに後藤、山口、牧野の得点で 4 連取し、流れをつかむ。そこから互いに点の取り合いとなるが、20 分過ぎに小澤、水町、川島、堀の得点で 5 連取し、一気に突き放す。前半残り 3 分、日本の 2 分間退場を機に 2 連取されるものの 16 対 12 で折り返す。

後半に入っても日本は攻撃の手を緩めることなく、35 分過ぎには北詰、小澤の 4 連取で、この試合最大の 6 点差とする。ここから点の取り合いになるが要所で体を張った GK・岡本のファインセーブ、そして日本のアグレッシブな DF が機能し、OF 面では牧野、小澤を中心に上手く時間をコントロールし、優位に試合が進む。最終的には 29 対 23 で快勝した。勝敗数で日本、韓国、ルーマニアが並んだ結果となったが、対戦間の総得点で日本が韓国を上回り、グループ A 1 位通過となった。

■準決勝：8 月 4 日（土）

日本　27（14 − 18、13 − 10）28　クロアチア

決勝をかけた戦いはクロアチアとの 1 戦。日本の攻撃から始まり、北詰のミドルで先制、さらに川島のサイドで 2 連取する。対するクロアチアも 2 対 2 から発展性のある攻撃で得点を重ねていく。拮抗した展開は 15 分過ぎまで続くが、日本の退場をきっかけに 4 連取されてしまう。それでも、メンバー変更や 7 人攻撃で応戦し、20 分過ぎには同点に追いつく。ここで流れをつかみたい日本だったが、相手のパワープレーによって再び退場者を出してしまい、再度 4 連取されてしまう。必死に食らい付くが、前半を 14 対 18 の 4 点ビハインドで折り返す。

強い気持ちを胸に挑んだ後半だったが、立て続けに 2 連取され、35 分過ぎにはこの試合最大の 6 点差と突き放される。崩れかけた日本だったが、牧野、北詰を中心に選手一人ひとりが冷静に対応し、一気に 5 連取、後半 10 分には 1 点差まで追い詰める。その後点の取り合いとなり、互いに 1 つのミスも許されない緊迫した展開となる。完全アウェイの雰囲気の中、選手は感動的なプレーを最後の最後まで繰り広げるが残り 20 秒、不運にもクロアチア LW ダボル・カバールのサイドが決まり 27 対 28 となる。すぐさま日本はチームタイムアウトを要求し、最後の攻撃確認を行う。残り 4 秒、北詰の放ったシュートは相手 DF のブロックに阻まれ、試合終了となった。

■ 3 位決定戦：8 月 5 日（日）

日本　29（20 − 12、9 − 12）24　ポルトガル

世界学生選手権最終戦、銅メダルをかけた戦いはポルトガルとの一戦。日本の攻撃から始まり、早いボール回しからサイドへ展開、シュートを放つも相手 GK に阻止される。対するポルトガルは個の 1 対 1 を中心に DF の間を攻め、低くなった DF の上からリベロが豪快にロングを放ち先制する。日本も後藤、牧野の得点で応戦し、拮抗した立ち上がりとなる。その後、点の取り合いとなるが、ポルトガルが連戦の疲れからか DF 面、OF 面においてミスが出始める。日本は集中力を切らし始めたポルトガルを尻目に、確実に得点を重ねて前半を 20 対 12 で折り返す。

後半に入っても牧野を中心にゲームコントロールするが、ポルトガルも意地を見せ、徐々に差を縮めていく。後半 15 分には最大 8 点差あったスコアも 4 点差まで迫られる。ここで日本はチームタイムアウトを要求してリズムを変え、川島、牧野の得点で冷静さを取り戻す。終了まで残り 10 分を切ってから 4 連取される場面があったものの、最終的には 29 対 24 で勝利し、見事に銅メダルを獲得した。

asics
I MOVE ME™



フィッティングを追及した軽量スピードモデル

GEL-FASTBALL 3

THH546 / 本体価格 ¥11,800+税



5001 インシグニアブルー × ホワイト



NEW COLOR

001 BLACK/SHOCKING ORANGE
7月中旬発売予定

本体価格は消費税抜きのメーカー希望小売価格です。 ■商品についてのお問い合わせ先：アシックスジャパン株式会社お客様相談室 0120-068-806
■当社ホームページ asics.com からもお問い合わせをしていただけます。

TOKYO 2020
TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES
Tokyo 2020 Gold Partner
(Sporting Goods)

第45回全国高等専門学校選手権大会

開催期間　2018 年 8 月 20 日～ 8 月 22 日
開 催 地　沖縄県・豊見城市
会　　場　豊見城市民体育館

最終順位

優　勝：鈴鹿工業高等専門学校（東海北陸地区）
準優勝：東京工業高等専門学校（関東信越地区）
３　位：徳山工業高等専門学校（中国地区）
　　　　北九州工業高等専門学校（九州沖縄地区）

大会を振り返り

沖縄工業高等専門学校ハンドボール部顧問　三宮 一宰

第 53 回全国高等専門学校体育大会・第 45 回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会は、８月 21、22 日に、沖縄県豊見城市民体育館で開催されました。参加チームは、全国の厳しい予選を勝抜いた 11 校と開催校の沖縄高専、計 12 チームです。全国を取る、という各チームの意気込みで、会場が熱気にあふれました。

４強をかけた熱い予選リーグを勝ち残ったのは、東京・鈴鹿・徳山・北九州の４高専でした。一戦必勝の熾烈な決勝トーナメントの結果、鈴鹿高専が優勝、東京高専が準優勝、徳山高専と北九州高専が３位、となりました。予選、決勝、全て、白熱した素晴らしい試合でした。同時に行われた女子エキシビションでは、鈴鹿・熊本（八代）合同チームに競り勝った沖縄高専が優勝、となりました。

ベスト４チームからの優秀選手である大会ベスト７は、鈴鹿高専から４年 CP 正木熙・４年 CP 小林飛雅・４年 CP 川田哲平、東京高専から５年 CP 小豆嶋大樹・５年 CP 菅原貫太、徳山高専から２年（！）CP 西島伶央斗、北九州高専から４年 CP 山本航、の各選手が選ばれました。ベスト７の声です。

正木選手（鈴鹿）「優秀選手に選んでいただき、とても嬉しく思います。この賞は毎日地道に練習してきた努力賞だと思っています。練習にあたってハンドボールを教えてくださった監督、コーチや一緒に励んだ仲間、支えてくれた親に感謝しています。」
小林選手（鈴鹿）「今大会の優勝という結果は、私たちだけの力で成し遂げられたものでは決してありませんでした。たくさんの人に支えられてここまでくることができました。感謝の気持ちを忘れず、来年も優勝するため日々精進します。」
川田選手（鈴鹿）「私はハンドボールを始めて１３年になります。私がプレーを続けることに理解してくれる家族にとても感謝しています。あと１年、キャプテンとして、また人間としても成長できるように練習に励みチームを引張っていきたいと思います。」
菅原選手（東京）「私がこの賞を頂けたのは、辛い練習についてきてくれたチームメイトや OB の皆様のおかげです。５年間ハンドボールを続けてきて良かったです。」
小豆島選手（東京）「今年、東京高専は史上初となる決勝進出を果たすことができました。優勝することは出来ませんでしたが、その夢は後輩たちに託し、自分は社会人チームでこれからもハンドボールを楽しんでいきたいと思います。」
西島選手（徳山）「今回はこのような賞を頂き光栄に思います。この賞が頂けたのはチームメイトのお陰だと思っています。僕の身勝手なプレーをみんなが受け止めてくれて，合わせてくれたので僕のプレーが生きてきたのだと思います。チーメイトに感謝したいです。」
山本航選手（北九州）「この度はベストセブンに選んでいただきありがとうございます。ベストセブンになれたのは顧問の先生や先輩方の指導があったからだと思います。これからは１番上の学年として後輩達を引っ張っていこうと思います。」

ベスト４以外のチームから選出の OB 会優秀選手は、高知高専の１年（！）CP 岡林潤選手でした。岡林選手の声を紹介します。「栄誉ある賞に選んでいただきありがとうございます。これに満足せず来年は、本当の優秀選手賞に選ばれるように精進します。また、チームとしても日々の練習を大切にして全国優勝目指して頑張ります。」

この大会を通じて、沖縄県ハンドボール協会の皆様の強力なご尽力がございました。この場をお借りし心より感謝いたします。大会準備・審判・TD・運営、全てハンドボール王国沖縄、というものでした。普段ハンドボール選手として全国レベルにある沖縄県の高校生ボランティアの皆さんも大会を完璧にサポートしてくれました。ありがとうございました。大会に参加されたチーム・ご家族・OB…、全ての皆様に、あらためて心より感謝申し上げます。遠くは北海道から、また被災された地域から、沖縄まで来てくださりありがとうございました。被災地の復興を、心よりお祈り申し上げます。日本ハンドボール協会の皆様に拝謝いたします。にーふぇでーびたん(ありがとうございました)。

優勝
鈴鹿工業高等専門学校



鈴鹿工業高等専門学校ハンドボール部監督　芝田 健一

この度は、第 45 回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会において優勝することができ大変嬉しく思っております。これもひとえに、ご支援、ご協力いただきました学校関係者の方々、保護者の方々、三重県ハンドボール協会の方々、そして、ともに練習試合をしてくださった近隣高校の先生方、選手のお陰であると感謝しております。また、大会開催にあたり、大会準備、運営にご尽力いただいた沖縄県ハンドボール協会、沖縄高専の関係各位の皆様に心からお礼申し上げます。

今年のチームは、昨年度の東海地区予選で豊田高専（第 43・44 回優勝校）に前半リードしながら、終盤に逆転負けを喫して敗退したところから始まりました。高校生と大学生に相当する選手が混じり合う高専のカテゴリーにおいては、選手の体格や体力に差があり、若干不利な環境にあります。その差を埋めるために栄養士の教育を受け、体幹強化、体重 UP、また守備力 UP に取り組みました。また、高校生の大会にも参加する中で、打倒豊田高専を目標に高専チームとしての完成度を高めてきました。そして迎えた今年度の東海地区予選では接戦の末、優勝することができ全国大会に出場できることができました。

全国大会では、『日頃の鍛錬の成果を発揮する、緊張を楽しむ、そして東海代表として恥じない試合をする』を目標に掲げ、試合に臨みました。初戦は対戦経験のある国際高専で序盤は硬さが感じられましたが、DF からリズムに乗り勝利することができました。２戦目は地元沖縄高専でしたがパワーの違いを見せつけ勝利することができました。

そして迎えた準決勝は最大の強敵で全国大会４連覇の経験もある徳山高専。リードされているところから追いつき、一時は追い越しましたが、その後、再三のシュートチャンスを作るもキーパーに阻まれ同点で延長戦へ。延長立ち上がりは、３点のリードを許すシーンもありましたが、ラスト２秒に逆転シュートを決め勝利することができました。選手の勝負を諦めない姿勢に感嘆させられました。

そして決勝戦の相手は我々と同じく初進出の東京高専。序盤のリードを確実に守り抜き初優勝することができました。

社会人として母校の監督をさせていただくようになり 11 年。悲願の全国制覇をすることができました。色々な事が思い出されますが、諦めずに付いてきてくれた選手、卒業生、ともに指導してくれたコーチに感謝し、また明日から打倒豊田高専、全国大会２連覇に向けて努力したいと思います。本当にありがとうございました。

鈴鹿工業高等専門学校ハンドボール部主将　川田 哲平

私たち鈴鹿高専ハンドボール部は東海地区代表として第 45 回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会に出場し、チーム史上初の全国優勝を成し遂げました。この全国優勝には OB の方々や東海地区の他高専のライバルたちの様々な思いが込められていたので、大きなことを成し遂げることができた喜びと共に安堵感があります。

大会１日目、予選リーグは国際高専、沖縄高専と同じブロックでした。国際高専とは３月に試合をしたことがあり強敵だとわかっていました。チーム全員でここが山場だと認識して試合に挑みました。国際高専の堅守速攻に苦戦する場面もありましたが、キーパー廣瀬の好セーブが光り勝利することができました。沖縄高専との試合は視野外のプレーに苦しめられることもありましたが速攻で点を重ね勝利することができました。

大会２日目、準決勝の相手は徳山高専。パスワークに苦しめられましたが何とか意地で延長戦に持ち込みました。

延長前半には３点のリードを許すも、後半の相手選手の退場が逆転への追い風となりみごとに逆転勝利することができました。そして迎えた決勝の相手は東京高専。シュート力のあるチームでしたが、落ち着いたプレーで点を重ね逆転を許すことなく試合を運び、優勝を勝ち取りました。

この全国優勝は鈴鹿高専ハンドボール部創部時からの一番の目標でした。その夢を私たちの世代で達成することができとても誇りに思います。日ごろから熱のある指導をしていただいた芝田監督と野呂コーチ、休日にも関わらず練習にお付き合いしていただいた先生方、練習に顔を出してくれた OB の方々，いつも暖かいご声援をくれる父母の皆様、そして、ともに練習に励んできたチームメイト全員でつかんだ優勝です。本当にみなさんに感謝しています。

今大会では優勝こそしたものの課題も見つかり、正直なところ運に助けられた場面もありました。来年の東海地区予選までは１年を切っています。『勝って兜の緒を締めよ』の精神で、打倒豊田高専を目標にさらに練習に励み、来年も全国優勝を果たしたいと思います。

戦　評

準決勝：東京　28（13 － 13、15 － 8）21　北九州

北九州は４番竹﨑のゲームメイクから山本（航）の多彩なシュートで得点を重ねるも、東京も山之口、小豆嶋のミドルで反撃し、前半は 13 対 13 で折り返しとなる。後半東京が小豆嶋の連続ミドルでペースを握ると北九州はマンツーマン DF で対抗するが、逆に広いスペースを有効に攻めた東京が突き放し初の決勝進出を果たした。

準決勝：鈴鹿　26（10 － 12、9 － 7、2 － 5、5 － 1）25　徳山

両チーム前後半譲らず一進一退の攻防で延長戦にもつれ込み、第一延長前半に徳山が３連続得点で流れを掴みかけたが、鈴鹿の川田、萩原の得点から流れを引き寄せ勝利を掴んだ。

試合は前半から両チームの堅守速攻、また両キーパーの好セーブもあり、接戦の様相を呈し、前半を徳山２点リードで折り返した。後半開始から鈴鹿の６連続得点で流れを掴んだかに見えたが、徳山も意地を見せ同点、本大会初の延長戦となる。延長戦では終了間際残り２秒川田のシュートにより鈴鹿が勝利をものにした。徳山は終始足を止めずに試合を展開し、市枝、西島を中心に得点を重ねたがあと一歩及ばなかった。

決　勝：鈴鹿　24（13 － 10、11 － 11）21　東京

試合は序盤から鈴鹿が多彩なオフェンスで試合を優位に進め、終始リードした試合展開で初優勝を掴んだ。両校共に初の決勝進出となった試合は正木の得点で幕を開けた。前半は鈴鹿が速攻、セットオフェンスにて点数を重ね、また安定したディフェンスで東京のオフェンスを抑え込み、３点差をつけて折り返す。後半は川田、小林を軸に着実に得点を重ね、同じく初優勝を目指す東京に一度もリードを奪われることなく安定した試合運びで勝利した。互いに初優勝を目指すなか、東京は小豆嶋のロングシュートを中心に攻めを展開し意地を見せるが、最後まで鈴鹿のディフェンスを崩すことはできなかった。





NTSブロックトレーニング報告 北 海 道

北海道ブロック運営委員長　**亀山 耕司**

実施期間　2018年８月25日～８月26日
参 加 者　スタッフ４名　デモンストレーター10名　高校生15名　中学生15名　小学生14名
補助指導者（高校）10名　補助指導者（中学）８名　補助指導者（小学）４名　　　合計80名

活動内容

日時	時間	内容
８月25日		
10:00		スタッフ・デモンストレーター打ち合わせ
11:30		受け付け開始
	20min	体力テスト実施
12:00	10min	開講式・全体説明（スタッフの紹介と当トレーニングの意義）
12:10	20min	派遣トレーナーによるベーシックセブン＋α
12:30	210min	小学生はサブアリーナへ、中学・高校はメインアリーナでトレーニング メインインストラクター：藤井氏 高校男子、中学男子・高校女子、中学女子・小学生の５グループでトレーニング 状況に応じて、中高男子・中高女子・小学生の３グループへ ５グループにそれぞれインストラクターを配置 補助指導者もコート上で指導を実施した メインアリーナは２面、１面はブロックトレーニング参加選手のトレーニングへ、 もう１面は、地元函館市の中学生のために開放、同メニューを体験して貰った。
15:55	20min	派遣トレーナーによるクールダウン
16:15	10min	まとめ明日の課題確認
16:30	15min	宿泊ホテルに移動
16:30	15min	ＪＲ運行開始により途中参加の札幌支部選手９名と指導者５名へ開講式と説明 （スタッフ・デレクター・派遣トレーナーも参加）
17:30	30min	管理栄養士による食事指導学習会引率指導者も参加（希望保護者の参加も有り）
18:00	45min	食事メニューの指導と食事
８月26日		朝食及び管理栄養士による食事に関する学習会
9:00		派遣トレーナーによるウォーミングアップ、ベーシックセブン
10:00		ゲーム形式（20分）①③女子（中学ー高校）②④男子（中学ー高校）
		強いコンタクトやボール奪取を意識したＤＦとシュートを狙った動きを意識したＯＦ
11:40		クールダウンまとめ閉講式

補足報告

８月24日（金）日本海海上を北上中の台風19号が温帯低気圧に変わって北上、台風20号も秋田県沖を北上、北海道は午後からJR全線が不通となる。開通の見通しのない中、翌日からの「NTS北海道ブロックトレーニング」の開催・延期・中止の判断をすることとなった。仲田委員長と協議の上、「受講者・指導者の安全を最優先する」こと、「規模縮小」「短縮開催」も視野に入れ「延期・中止なし」との結論に至った。

８月25日（土）の午前までは公共機関が動かない事が決定している中、釧路から移動の小学生・中学生は24日（金）17時の段階でJRが千歳でストップ、指導者がレンタカーを手配し、函館へ入る。到着は22時。札幌からの中高生は、25日（土）午後のJRで函館へ移動（特急で４時間）、25日のメニューは管理栄養士の学習会からとなった。急遽、開講式を16時過ぎからも行った。

スタッフ・トレーナーは無事、24日（金）のうちに、函館入りできた。補助指導者の不足はあったが、運営に支障は最低限に抑えることが出来た。派遣トレーナーによる、ベーシックセブンの動作確認・クールダウンは大変役に立った。また、怪我の防止やトレーニングの実施におけるテーピング、助言、有意義であった。今後も継続派遣をお願いしたい。

派遣ディレクターに「受付・体力測定時」に講習をお願いしている。世界のハンドボール状況について・指導法コーチングの見直しに、有意義な時間となった。コミュニケーションの活性化の意味でも今後も続けたい。

今後の課題

①来年度からは実施場所を函館から札幌へ移すこととなった。

広域の北海道、移動の負担を減らす。小学校カテゴリーが釧路・函館が牽引してきたが、札幌・紋別・帯広でも活動している。低年齢層の活動の活発化に繋がるような運営をしていく。

※ブロックトレーニング参加者とは別に（別コートで自由参加）、見学者・見学チームがメニュー体験が出来る環境整備

②来年度から小・中・高の３つのカテゴリーからU-13、U-16の２つのカテゴリーで実施する。

インストラクターの選出・精選が課題となる。

③宿舎での知的トレーニングも実施したい。現在は栄養指導・学習であるが、「アスリートの心構え」「世界のハンドボール」などの講義は可能と考える。

④管理栄養士による食事指導学習会をトレーニング受講者だけではなく、主トレーニング中に、「保護者対象」で食事指導が出来ないものか…検討したい。

ティーンエイジャーの食事指導は、当然、保護者を巻き込んで、毎日の充実を図らねばならない。

（ブロックの実情を踏まえた運営に対して、自由度が利く、現在のNTSの体制に感謝いたしたい）

NTSブロックトレーニング報告 北 信 越

北信越ブロック運営委員長　矢田 晃章

開催日：2018年8月25日（土）～26日（日）（小学生は26日のみ）
会　場：富山県総合体育センター、富山市体育文化センター
参加者：小学生26名、中学生28名、高校生29名、スタッフ（運営委員、技術指導員、インストラクター）27名、
補助指導者25名　計135名

今年度も、小学生の部、中学生の部、高校生の部に分かれてトレーニングを実施しました。ブロック技術指導委員長及びU-12技術指導委員長のもと、各県技術指導委員とインストラクターがしっかりと打合せを行いトレーニング（指導）に臨みました。実施したトレーニングの内容、指導のポイントは次のとおりです。

○中学生、高校生

・オフェンス…どのように攻めればオフェンス側の一人がノーマークになるかという考え方を指導し、２対１・２対２・３対２・３対３のトレーニングを徹底した。また、速攻でも同様にノーマークを作ることを意識させた。

・ディフェンス…女子では、牽制からの利き腕に対するアタックが困難と判断したため、そのまま相手に密着し、足を使ってついて行くことを指導した。更に、そのプレーヤーに対して２人で守り、連動してクロスアタックする判断トレーニングまで行った。男子では、パワーのある外国人を想定し、牽制によって相手のスピードや進行方向を限定したうえで、そこから利き腕に対して強くアタックするトレーニングを行った。

○小学生

・オフェンス…ボールを保持した状態でも広い視野を確保し、状況に応じた身のこなしやボールコントロールが正確にできるよう指導を行った。状況に応じたパスを行うために、腕の動き、視野の確保、片手パスキャッチなどについて、実際の場面をつくり、正確な判断やパス技術を意識させた。また、動きの中で常に次のプレーを想定させることで、視野を広くし、攻撃の空間を確保できるような動きをすることを意識させた。さらに、１対１では、空間への走り込みでディフェンスを突破することを意識させた。

・ディフェンス…アタック動作については、上半身（腕）だけを使った動きにならないように下腹部を意識しながら突き上げる動作を、実際に手本を見せ、具体的に説明をおこなった。フットワークについては、アタックだけの動きではなく、その前後の動き（牽制、アタック、カット、リバウンド）を、実際の場面とトレーニングを重ね合わせ具体的に説明し指導した。また、１対１は常にオフェンスにインを突破されないような面の取り方、アタック、牽制、カットを指導した。牽制の動きからスムーズに面の向きを入れ替え、様々な状況でもオフェンスの動きを予測しながらアタック（インは閉めておく）することを意識させた。

また、中高生には、宿舎で「日本代表選手になるために必要なこと～技術面、精神面、体力フィジカル面、生活面などから考える～」をテーマにトレーナーから講義を受け、考えをまとめたレポートを書いてもらいました。「挨拶、礼儀など当たり前のことがしっかりできること」「プレーには身体的要素が最も大切だが、それには安定したモチベーションと日々の研鑽が必要」「苦しい時に諦めずやり抜く事のできる、勝つという強い意志」「代表選手になって活躍したいという強い気持ち」「他の人と違う個性、他の人にできないことをどんどん挑戦したい」「世界で勝ちたいという気持ち」「判断力も含めた瞬間的なスピード」「自分にできる最大限のことするための強いメンタル」「人から応援される選手を目指したい」など、選手一人ひとりが、今の自分を見つめ、今の自分に必要なもの、足りないものを意識したようです。

「NTSを通して素晴らしい同年代の選手に触れました。今まで以上にモチベーションを高く持ち、日本や世界で通用する選手になれるよう練習します。」今回参加したある選手のコメントです。今年度のトレーニングも、スタッフ一丸となった指導、運営により、充実したものとなり、一定の成果は挙げられたと考えています。

一方、指導者のさらなる充実や余裕のある日程確保など、今後の改善すべき点も挙げられており、来年度以降の課題として取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、ブロックトレーニングの開催にあたり、多くの皆様のご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げますとともに、今後も引き続き皆様のご支援をお願い致します。





NTSブロックトレーニング報告 東 海

東海ブロック運営委員長　田中 康暁

東海ブロックでは今年度、U13・U16の２つのカテゴリーで行ったこと、小学生も宿泊をし、トレーニング時間を長くとったこと、派遣トレーナーによる指導、参加者全員を対象とした管理栄養士による栄養指導、補助指導者の義務研修への参加など、多くの新たな試みを行った。そして、それぞれの指導について役割分担を行ったことで、昨年度まで以上に充実した２日間となったと思われる。また、トレーニングの時間を伸ばしたことで、各指導に時間をかけることができたため、選手は様々な分野の情報を得たり、反復練習したりでき、得たものが多かったようである。「牽制のディフェンスの仕方を学び、駆け引きが大事であることを感じた」（中１男）「GKでは、ボールに合わせてとることや体の軸を持っていくことがわかった」（中３女）「攻撃ではボールを持った時の状況判断が大事で、動いたりパスを出したりするためのスペースの見つけ方がつかめた」（高１男）「腹式呼吸を常に意識し、重心を下げるために腹圧を上げるとよいことがわかった」（高１女）「運動、食事、睡眠が大事。集中力を出すときには糖分をとるといいことがわかった」（小６男）「周りのレベルが高い中、良い経験になった」「しっかりとトレーニングの意図を理解できて動けた」（中３女）など学んだことやチームに持ち帰りたいということがレポートにたくさん書かれていた。

技術指導委員やインストラクターは、いろいろな側面から選手を見て選考し、将来性あふれる能力・サイズを有する選手を中央へピックアップすることができた。各所属チームでは全国大会など上位大会で活躍することができない、埋まってしまっている素材を発掘できたことは大きな成果だと考える。また、２つのカテゴリーにしたことで、１つのカテゴリーの人数が増え、複数人で行うメニューや試合形式の際もプレーヤーを補充することなく行うことができたことは良かった。

指導内容については、現在の代表チームで取り組まれている牽制を用いたDFについては所属チームの取り入れているシステムによって、戸惑いがあったように感じた。しかし、代表チームでは短期間でのチーム作りが求められるため、ジュニア段階からのこのようなアプローチは、代表に選出されてからの混乱を避けることができるし、「全日本のチームに入って世界で通用するプレーヤーになりたい」（中１女）「日本代表になって世界の人達と試合をする」（小６男）「実業団でプレーしたい」（多数）「三重国体で活躍する」（中３女）など選抜チームや高いレベルでプレーすることを将来の目標に掲げる選手も多いので必要なことであると思われる。また、「今日はコミュニケーションがうまく取れなかった。もっと自分から積極的にコミュニケーションをとりたい」（中２男）という言葉から、プレーするにあたりコミュニケーション力は欠かせないものであるので、技術だけではなく、仲間作りのようなプログラムをどこかに入れられると人間性やリーダーシップ、コミュニケーションスキルを高めたり、評価したりできるとも思われた。

補助指導者は、熱心にビデオ・写真撮影、ノートにメモを取っており、代表で求められる技量を普段の練習から選手に伝えることにつながると期待できる。











NTSブロックトレーニング報告 中 国

中国ブロック運営委員長　坂本 伸博

開催日：30年8月22日（水）高校生
　　　　30年8月23日（木）中学生
　　　　30年9月24日（月）小学生

場　所：8/23・24　湧永満之記念体育館
　　　　9/24　　　環太平洋大学第二キャンパス体育館

まず初めに、NTS中国ブロックトレーニングに際しましてご協力いただいた方々にお礼申し上げます。

この度、西日本に甚大な被害がありました西日本豪雨災害で当初実施場所として予定していた広島県呉市にある呉市総合体育館（オークアリーナ）での開催が見送る形となりました。そこに手を差し伸べて頂きました湧永製薬㈱様のご協力をお借りして、当初予定していた日程（8/22～24）にて、湧永満之記念体育館でトレーニングを実施する運びとなり、大変感謝しております。

予定していた場所からの変更により、コートが1面のみといった当初の条件より悪条件になったものの、日本協会NTS委員長仲田様のご理解を頂き、3日間で高校生・中学生・小学生と各1日開催となりました。

しかし、一筋縄で行かない今回の中国ブロック。最終日に台風が近付いていた為、小学生のトレーニングは延期する形になりました。今回の豪雨災害の影響を加味しながらスタッフと相談し、日程調整等を行い、別日（9/24）にて環太平洋大学様のご協力で開催することができました。

今回、このような自然災害などで参加者、関係者の身の安全を第一に考慮し、実施いたしましたことご了承いただければと思います。

NTSブロックトレーニングの内容についてですが、技術委員長の前田誠一さんをはじめ、派遣ディレクターの麻生さん、U-13技術委員長濱口さん、デモンストレーターの湧永製薬ハンドボール部、環太平洋大学ハンドボール部の皆様のご協力のおかげで、わかりやすく、丁寧な指導をしていただきました。

参加した生徒たちの表情もすごくよく、また指導者の方々も真剣に指導を学ばれておられました。NTSトレーニングの一貫指導を通じて中国ブロックの技術、指導向上、そして日本の未来の競技力向上に繋がっていけばと思っております。

上記でも述べたように1コートという条件下の中、1日で中学生、高校生のトレーニングを行った為、全てのメニューを消化することが出来ませんでしたが、1つ1つのメニューの意図をしっかり伝え、私個人として、子ども達の懐に落とし込む作業に感銘を受けました。

また、初めての仕組みだったにも関わらず、派遣トレーナーの方にも協力を頂き、身体の使い方等を指導、選手に関してのトレーニング中のケガに対するケアに関しても対応良くして頂く事で、去年より厚みの増した素晴らしいトレーニングになったと感じております。今後も日本ハンドボール力向上に向けて尽力していきたいです。





帯同ドクター報告　男子女子2018ジャカルタアジア大会

帯同ドクター　沖本 信和

ジャカルタで開催された第18回アジア大会につき報告いたします。

〈事前準備〉

前回、前々回のアジア大会にはドクターの帯同はありませんでした。本部ドクターが駐在しているとはいえども、他の競技もあり、試合直前処置（注射）や試合中処置、常時チーム帯同などは困難であることが指摘されていました。大会参加人数に余裕がないとはいえ、外傷・傷害の要素が高いハンドボール競技おいてドクター帯同は必要であると認識しておりました。本大会においては最終的にトレーナー男女各1名、ドクター男女兼任となりました。アジア大会においては外傷・傷害治療とドーピングコントロール対策からもドクターは必須であると認識しました。

ドクターバッグの内容については5月の時点で提出しておりました。女子については井本先生より、男子については沖本からオーダーしておりました。多めにオーダーしていて正解でした。

8月10日にNTCにて男女チームと合流して、翌11日ジャカルタに出発しました。大会本部メディカルチームから気候・治安・感染症情報・水事情・食事などの状況が前もって情報を得ることができました。移動時などはNAチームらしく、マスク、うがい、手洗いは皆よくできていました。

〈現地・大会期間中〉

会場は1会場で選手村から渋滞の中を白バイ、パトカー先導で約45から60分でした。練習会場は30分程度でした。今回は試合会場コートが1つであったため、男女の試合が重なることなく、ドクターとしては助かりました（男子7、女子6試合がありました）。

以前インドネシアで行われた、女子アジア選手権での報告が参考になり、食中毒などについて事前に注意をしていました。下痢止めや抗生剤、抗菌剤などの充実、ミネラルウオーター使用の徹底、料理の選別（生もの禁止）を行いました。21泊の長期滞在であるため、最初の1週間は禁止、摂取していたスタッフなどに問題なかったことなどから徐々に生野菜やカットフルーツを摂取するようになりました。しかしながら、発熱や下痢、嘔気などの症状を数名の選手に生じました。大事なゲームに影響を及ぼすことはありませんでしたが、今後も油断できないことを痛感しました。選手村は蚊が多く、殺虫剤が役立ちました。空調は問題ありませんでした。シャワー水道は汚水の臭いがあり、苦労しました。移動時、会場内の空調は整い、熱中症対策としては問題ありませんでした。

コンディショニングについては、女子側に田口団長・高野内トレーナー、男子側に沖本・飯田トレーナーの部屋割りで行いました。アジア大会では部屋割が難しいので、田口団長にはご苦労をおかけしました。有難うございました。毎日、23時以降まで高野内・飯田トレーナーがドクターと連携をとりながらしっかりとケアしてくださいました。深謝申し上げます。

練習や試合を通じての外傷についてですが、縫合するような出血はありませんでしたが、男子1名接触プレイで鼻出血がありました。白ユニフォームだったので試合中にすぐに洗って血をとりました（替えのユニフォームはあるのですが、替えのユニフォームに血液が付くと、試合に出られません）。男女ともに大腿四頭筋、下腿三頭筋、側腹部の筋挫傷はいつものように数名出ましたが、プレイに大きな支障はありませんでした。特筆すべき処置としては、トレーナーと相談の上、右肘内側筋挫傷にてトリガー注射や、膝関節内注射、膝後方腱付着部のブロック注射や足関節内注射や有痛性三角骨部のブロック注射、腰仙部のトリガー注射を施行しました。残念ながら女子選手1名が試合中にフェイントをかけた際に右膝ACL損傷を生じました。（帰国後にMRI精査を北岡先生にすぐに施行していただきました。北岡先生、御加療深謝申し上げます。）

〈ドーピング検査について〉

アジア大会開会式前にハンドボールは試合がはじまっておりましたが、選手村内にて競技外（大会前）抜き打ち検査が男女各1名ずつ行われました。いずれも昼食後に部屋にシャペロンが来ました。スムースに検査は終了しました。1件は血液採取（尿検査と併用）も行われました。将来的には採血が増加しそうです。競技場内では3位決定戦を含む男女2試合ずつ、各1名が試合後半残り10分に抽選（i-padによる）で選ばれました。女子選手は2試合とも同一人物でした（お疲れ様でした）。検体はドイツに空輸されるようです。全体の10から20%に血液ドーピングを行っているようでした。皆スムースに検体を90ml以上採取できました。多くの選手はオフィシャルサプライヤーの味の素のアミノバイタルや大塚のボディメイトの摂取でしたが、危険性を伴う可能性のあるサプリメントについては今後もより厳しく使用しないように啓蒙する必要性を再認識しました。

〈謝辞〉

沖本個人的にはほぼ全員の選手が顔見知りで傷害の状況も把握できていたことや、高野内・飯田トレーナーとの連携もスムースであったこと、ドーピング検査は今回6名（実質5名）いずれも経験済みであったことは助かりました。

女子銅メダル、男子4位と満足できない結果であったかもしれませんが、いずれも最終日まで戦えたこと、良い方向に発展途上であることを実感しました。

帯同に際していつもながら日本協会の原田さん、床尾さん、NTCの河上さん、様々な手続きにご尽力いただきありがとうございました。チームのスタッフであるウルリック、ダグル両監督、櫛田、舎利弗、北林コーチ、嘉数分析スタッフ、藤田総務、高野内･飯田両トレーナーの皆様にも心より感謝申し上げます。「自分がどう振る舞うか、自分の命をどこに運ぶかで、運命は決まる」という田口団長の言葉を胸にポジティブにチームジャパンビルディングにメディカルチームも積極的に参加すべきと考えます。

帯同ドクター報告

アジア男子ジュニア(U-21)ハンドボール選手権

帯同ドクター　森實 岳史（久万高原町立病院(愛媛県)総合診療科）

はじめに

表記大会に帯同医師で参加しましたので報告いたします。

選手団との合流は出発直前の羽田空港で、自己紹介は現地到着後に行いました。最終戦（決勝）まで進出できたおかげで11日間で8試合というかなりタフな日程になりましたが、大きなけがや病気もなく大会を終えることができました。

帯同にあたり、私はチームのために何でも行うという覚悟で参加しました。Technical Meeting（7月1日施行のルール変更の解説）、招待Partyの参加、選手のパスポートの返却交渉、補食用ご飯のための電子レンジの依頼、氷の手配、買い物、ホテルでの洗濯の交渉、後着スタッフの移動とホテルの確保、通信手段の確保、自室をMeeting Roomとして提供、試合ビデオの撮影、記録写真の撮影、戦評の下書き、などでした。

現地サラーラは夏の3か月は季節風の影響で晴れる日は少なく、アラブ諸国から避暑に多くの観光客が訪れる、オマーンの第2の都市で、アジア大会は初開催のようでした。薄曇りと霧雨、最高気温は28度、湿度は90%以上という毎日でした。現地在住の日本人は皆無で、日本人による大会中の応援は遠くカタールから応援の2名だけでした。深謝申し訳ありません。

滞在ホテル（Salalah Rotana Resort)

市内の中心から30㎞程離れた5つ星リゾートホテルでした。冷房は20度以下に設定されており、湿気が多く室内の床が濡れている状態でした。

食事はビュッフェで品数は多く量や種類は問題は有りませんでした。トングを使用せずに手にしたり落ちたパンを元に戻す客もおり、手洗いだけでは食中毒は防げない状況でした。幸い大きな胃腸障害は起きずに過ごせました。

ホテル周辺には店は一切なく、買い物は市の中心部まで行く必要があり、何度か買い物に行きました。ビュッフェでのペットボトルの水やパンの持ち出しをホテル側が黙認してくれたおかげで補食の足しになりました。

練習会場、試合会場

日程や試合会場は大会中までも何度も変更があり、練習会場と試合会場のいずれも市内の中心部のそれぞれ1か所でした。定員一杯のマイクロバスでハイウェイを移動しますが、先導は無く、高速道路を横断するラクダ遊牧の群れが優先の「ラクダ渋滞」のため、移動に時間を要しました。（写真1）会場には330ml入りの水のペットボトルが多く準備され水分補給は充分でした。大会前半は汗のためボールや床がよく滑り、スケジュールが大きくずれ込んだため大会後半は冷房を強力に効かせていました。

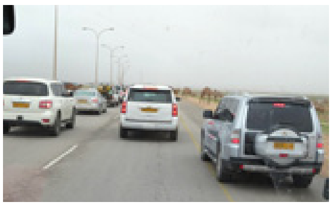


写真1　ラクダの群れがハイウェイを横断し、通過を待つため渋滞

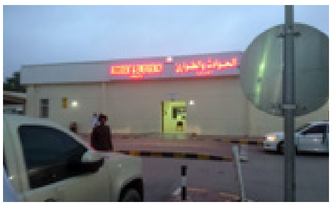


写真2　サラーラ市内の王立病院の夜間急患センター入口

医療活動

ゲーム中の外傷では、オフィシャル席から（ベンチ外の）私にベンチのすぐ後ろにまで入場する許可を与えてくれ、対応することができました。試合終了後、チーム付き現地案内人が運転するレンタカーで王立総合病院の夜間急患センターを受診しました。（写真2）入口・受付・待合とも男女別で、受付、トリアージナース、診察料の前払い！（建物外へ、カード払い）、初診医の診察、検査料の支払い（再度!!建物外）、X線検査、専門医診察、の順で進みました。ドクターバッグの中から固定具を作成し、その後の試合は出場することができました。

その他、膝関節周囲筋腱注射、肩関節へのヒアルロン酸注射、指脱臼時の神経ブロック注射を行いました。毎試合、選手同士の接触による筋挫傷は頻発し、アンダーパット付きインナーは大変有用で湿布や鎮痛剤で対応しました。内科的には、試合後の過換気、胃腸疾患、皮膚掻痒がありましたが現地医療機関を受診せずに対応できました。

マウスガード（マウスピース）：今回、選手は全員が作成しており、全力発揮、外傷予防の面で選手からも好評でした。全てのカテゴリーで規則上許可された透明なものの装着を広めていく必要があると思えました。

栄養、体重管理：選手は事前合宿中から吉村監督、水野ATから教育を受けており、大会中も体重減少を来すことなく過ごせました。ビュッフェの中で選手は食べるべきものや量をよく理解しているようでした。他の多くのチームはスィーツを自由に摂取していました。

ドーピングについて

Technical MeetingでTUE申請を提出するように求められ、2名の選手分を英語で記載しました。検査は今大会中は行われませんでした。

謝辞

国際大会が複数開催される中で医事委員会の先生方や事務局の皆様、過去最高位のアジア2位を成し遂げた選手の皆様・スタッフ諸氏、長期間の留守を許していただきました職場の皆様に深謝申し上げます。



写真3　表彰式、史上最高の2位で世界大会に出場。おめでとうございます

熊本通信

第17回女子ハンドボールアジア選手権熊本開催のお知らせ

11 月 30 日から 12 月 9 日まで第 17 回女子ハンドボールアジア選手権が熊本県内 3 会場で開催されます。この大会は、来年熊本で開催される 2019 女子ハンドボール世界選手権大会のアジア予選を兼ねています。日本は開催国枠で出場が確定していますが、アジア各国がその出場権と優勝をかけ、熱戦を繰り広げます。

チケットは以下のとおりで、決勝ラウンドでは日本代表グッズ付きのプレミアムシート（限定 30 席）もご用意しました。

今年ジャカルタで開催されたアジア競技大会では、女子日本代表は中国に僅差で敗れて 3 位。アジア選手権では頂点を目指し奮闘してくれると期待しています。世界選手権大会まで残り 1 年となった今、この機会にぜひ、熊本で繰り広げられる熱き戦いをみんなで観戦して盛り上げていきましょう！

2019女子ハンド 検索

詳しくは大会特設ページでご確認ください。

第17回女子ハンドボールアジア選手権マッチスケジュール及び料金表

17th Asian Women's Championship (Qualification for WWCH 2019 - Japan)
Match Schedule & Plice List

グループ		
	A	1.日本　2.カザフスタン　3.イラン　4.オーストラリア　5.ニュージーランド
	B	1.韓国　2.中国　3.香港　4.シンガポール　5.インド

日 程	ラウンド	グループ 会場	マッチスケジュール	大人		高校生		通し券（前売のみ）
				前売	当日	前売	当日	
11/30（金）1日目	予選ラウンド	A 八代	16:45　1　オーストラリア　vs　カザフスタン	1,000	1,500	500	1,000	2,500 ※八代、山鹿両会場で使用可
			19:00　2　ニュージーランド　vs　日本					
		B 山鹿	16:45　3　シンガポール　vs　中国	無料				
			19:00　4　インド　vs　韓国					
12/1（土）2日目	予選ラウンド	A 八代	13:45　5　イラン　vs　カザフスタン	1,000	1,500	500	1,000	
			16:00　6　オーストラリア　vs　日本					
		B 山鹿	13:45　7　香港　vs　中国	無料				
			16:00　8　シンガポール　vs　韓国					
12/2（日）3日目	予選ラウンド	A 八代	13:45　9　カザフスタン　vs　ニュージーランド	無料				
			16:00　10　オーストラリア　vs　イラン					
		B 山鹿	13:45　11　中国　vs　インド	無料				
			16:00　12　シンガポール　vs　香港					
12/3（月）4日目	休 息 日							
12/4（火）5日目	予選ラウンド	B 八代	16:45　13　香港　vs　韓国	無料				
			19:00　14　インド　vs　シンガポール					
		A 山鹿	16:45　15　ニュージーランド　vs　オーストラリア	1,000	1,500	500	1,000	
			19:00　16　イラン　vs　日本					
12/5（水）6日目	予選ラウンド	B 八代	16:45　17　韓国　vs　中国	無料				
			19:00　18　インド　vs　香港					
		A 山鹿	16:45　19　ニュージーランド　vs　イラン	1,000	1,500	500	1,000	
			19:00　20　日本　vs　カザフスタン					
12/6（木）7日目	休 息 日							

日 程	ラウンド	会場	マッチスケジュール	大人		高校生		プレミアムシート（前売のみ）	通し券（前売のみ）
				前売	当日	前売	当日		
12/7（金）8日目	9-10位決定戦	熊本県立総合体育館	10:30　21　A5位　vs　B5位	無料				設定なし	3,500
	5-8位決定予備戦		12:30　22　A3位　vs　B4位						
			14:30　23　B3位　vs　A4位						
	準決勝		**16:45　24　B1位　vs　A2位**	2,000	3,000	1,000	1,500	10,000	
			19:00　25　A1位　vs　B2位						
12/8（土）9日目	7-8位決定戦		13:45　26　22敗者　vs　23敗者	無料				設定なし	
	5-6位決定戦		16:00　27　22勝者　vs　23勝者						
12/9（日）10日目	3-4位決定戦		**12:45　28　24敗者　vs　25敗者**	2,000	3,000	1,000	1,500	10,000	
	決勝戦		**15:00　29　24勝者　vs　25勝者**						

中学生以下は無料です。
無料の日も入場整理券が必要です（入場整理券は当日会場で配布します）
プレミアムシート：1階アリーナ席（各日限定30席）日本代表グッズ付